

一 相當期限内ニ上納スルコト能ハスシテ年月賦若クハ据置ノ后徴收スヘキモノ
 二 身代限ノ處分ヲ受ケ追テ身代持直次第徴收スヘキモノ
 第三條 延納貸金ヲ徴収スルトキハ森林收入(款)雜入(項)年賦及延納金ノ目ヘ編入スヘシ
 第四條 左ニ掲グル延納貸金ニ關スル諸件ハ經伺ノ上處分スヘシ
 一 返納金ノ年月賦ヲ變換シ又ハ負債ノ義務ヲ他人ヘ移轉スルコト
 二 棄捐
 三 抵當品ノ交換
 四 八箇月以上徴收期限ノ延期願
 第五條 負債主他ノ管轄内ヘ住居ヲ轉シタルトモ大林區署設置アル地方ハ其大林區署ヘ未設置
 ノ地方ハ其府縣(沖繩縣ヲ除ク)ヘ引繼クヘシ
 第六條 毎年三月三十一日及十二月三十日ノ終結現狀ニ據リ延納貸金現在高報書告(書式第一
 號)ヲ調製シ翌月十五日迄ニ當省ヘ差出スヘシ
 第七條 延納貸金ノ異動ハ左ノ兩期ニ分チ延納貸金異動報告書(書式第二號)ヲ調製シ前條報告

書ト同時ニ當省ヘ差出スヘシ

一甲年四月一日ヨリ同年十一月三十日迄ノ間二甲年十二月一日ヨリ乙年三月卅一日迄ノ間

○農商務省訓令第七號 明治廿二年一月二十九日 大林區署

明治二十一年林第百二十八號森林收入及森林費計算記簿式左ノ通改正シ明治二十二年度ヨリ施行ス

但別冊ハ山林局ヨリ送付ス

第一條 森林收入所屬帳簿第七ノ次ニ「八第何號森林收入延納貸金臺帳第八模本」ノ一項ヲ加ヘ森林費所屬帳簿第十四某年度森林費支出約束簿」ノ一項ヲ削除ス
 第四第五第六第七第十三模本別冊ノ通改正ス
 第六條 但書年期臺帳ノ下「又延納及年賦金ハ總テ延納貸金臺帳」ノ十六字ヲ加フ
 第七條 其計算ヲ整理スルモノヨシテノ下「各目毎ニ口取ヲ設ケ」ノ九字ヲ加フ
 第八條 ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス
 第九條 森林收入延納貸金臺帳ハ其年度ニ起リタル延納貸金又ハ其變更等ヲ記入シ其計算ヲ整理

スルモノニシテ事件ノ起タルトキ之ヲ記入スルモノトス

但以下年度統括ノ區ニ記入ノ金額ハ前條但書ト同一ノ手續ヲナスヘシ

第十四條其計算ヲ整理スルモノニシテノ下「各節毎ニ口取ヲ設ケ」ノ九字ヲ加フ

第十五條ヲ削除ス

第十六條但書年定期臺帳ノ下「及延納貸金臺帳」ノ七字ヲ加フ

第十七條次葉繰越ノ「トキニ於テノ下」之ニ反對セル區ノ合計ヨリ」ノ十二字ヲ削除ス

第十八條次葉繰越ノ「トキニ於テノ下」之ニ反對セル區ノ合計ヨリ」ノ十二字ヲ削除ス

第一條ノ八某年度森林費日記簿第八模本ヲ九某年度森林費日記簿第九模本ト改メ以下順次繰下

シ

第九條ヲ第十條ト改メ以下第十四條迄順次繰下

○内務省告示第一號 明治二十二年二月二日

明治二十一年法律第一號市制第二百二十六條ニ據リ市制施行地左ノ通指定ス

市制施行地

東京府管下	東京
京都府管下	京都
大阪府管下	大阪 堺
神奈川縣管下	横浜
兵庫縣管下	神戸 姫路
長崎縣管下	長崎
新潟縣管下	新潟
茨城縣管下	水戸
三重縣管下	津
愛知縣管下	名古屋
靜岡縣管下	靜岡
宮城縣管下	仙臺
巖手縣管下	盛岡

青森縣管下	弘前
山形縣管下	山形 米澤
秋田縣管下	秋田
副井縣管下	福井
石川縣管下	金澤
富山縣管下	富山 高岡
島根縣管下	松江
岡山縣管下	岡山
廣島縣管下	廣島
山口縣管下	赤間關
和歌山縣管下	和歌山
德島縣管下	德島
香川縣管下	高松

愛媛縣管下	松山
高知縣管下	高知
福岡縣管下	福岡 久留米
熊本縣管下	熊本
鹿兒嶋縣管下	鹿兒島

○內務省告示第二號 明治二十二年二月二日

大阪府下等區內本町二丁目百三十九番地藤谷虎三發行ノ蒼髯叟並ニ同人發行ノ故突天漢遺言曰
 雜言ト題スル出版物ハ治安ニ妨害アルモノト認メ發賣頒布ヲ禁止ス

○宮城縣訓令第十一號 明治二十二年二月五日 郡 區

改正貸座敷娼妓取締規則第八條ニ於テ賦金免除之場合ヲ規定候處娼妓ニシテ妊娠又ハ逃亡シ其
 業ニ就カザル日數ハ仍ホ第八條ニ準シ賦金ヲ免許スル議ト心得ヘシ

○大藏省告示第十四號 明治二十二年一月三十一日

一 本年(一月)勅令第六號鐵道費補充公債條例ニ據リ鐵道費補充公債額面貳百萬圓ヲ募集スルモ

ノトシ其價格ハ證書額面百圓ニ付金百圓トス
 一 庶業者ハ來ル二月十五日ヨリ同二十日迄ニ應募金額價格及住所姓名ヲ詳記シ日本銀行本支店
 又ハ代理店へ申込ムヘシ
 一 應募者ハ申込ノトキ應募額百圓ニ付金拾圓ノ割合ヲ以テ保證金ヲ拂込ムヘシ
 一 大藏大臣ハ來三月五日マテニ各應募者ニ交付スヘキ證書ノ高ヲ定メ日本銀行ヨリ通知セシム
 ルニ付其高ニ對スル金額ノ内保證金ヲ引去リ跡金ノ拂込ヲ二期ニ分チ來三月十五日ヨリ同二
 十一日マテヲ第一期トシ同四月十日ヨリ同十五日マテヲ第二期トシ第一期ニ證書額面百圓ニ
 付金五十圓第二期ニ殘額ヲ拂込ムヘシ
 一 前各項ノ外ハ整理公債募集ノ手續ニ據ルモノトス
 ○宮城縣訓令第十二號 明治二十二年二月七日 郡 區
 庶務衙門及仕入亭調之義明治十八年五月農第五五〇四號ヲ以テ違シ置キ從處爾今左ノ雜形ニ
 改正候條毎月取調翌月五日限り差出候様右賣捌人へ達スヘシ
 仕入マ賣捌亭調

種 類	仕入年月日	仕 入 高	通	價	何某地		價	製作所地名
					賣 捌 高	姓 名		
何								
何								
何								

○勅令 明治二十二年二月二日
 朕橫濱正金銀行條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御 名 御 璽
 勅令第十號
 明治二十年(七月)勅令第二十九號橫濱正金銀行條例中左ノ通改正シ明治二十二年六月一日ヨリ
 施行ス
 第十五條 橫濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期チ一箇年トス株主總會ニ於テ其人員ヲ定
 メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ復

選セラル、者モ亦同シ

第二十二條 橫濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戻スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ危險ナル所爲ト認ムル事件アルキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改撰ヲ命スルコトヲ得

第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ橫濱正銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

○閣令第四號 明治二十二年二月七日

各官廳

文具支給規則ヲ定メ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス

文具支給規則

第一條 此規則ニ於テ文具ト稱スルハ左ノ物品ヲ總稱ス

- 筆 ペン 鉛筆 墨茶墨 インキ 檢印用印肉
- 硯紙 御紙 硯石 硯箱 インキ壺 字消護謄 簿記用海綿
- 小刀 錐 鋏 糊壺 水入 文鎮 檢印用肉池
- 定木 尺度 机拂用ブラッシユ 綴金及留針 烏口 コンパス 紙鋏
- 火熨斗

第二條 官吏及傭員ニ給スル文具ハ現品ヲ以テ給セス一箇月金二十五錢以內適宜等級ヲ分テ其

支給額ヲ定メ代料ヲ以テ給スヘシ

第三條 職掌上高價ノ文具ヲ要スルモノアルトキハ各省大臣大藏大臣ト協議シ特ニ現品ヲ以テ支給スルコトヲ得

第四條 各省大臣ハ第二條ニ依リ定メタル文具代料ノ等級金額ヲ大藏大臣並ニ會計検査院ニ通知スヘシ

○海軍省告示第二號 明治二十二年二月四日

海軍志願兵徵募規則ニ依リ受檢合格採用證書ヲ附與シタル者ノ結婚ハ入營前ト雖モ海軍武官結婚條例ニ依ル可シ

○賞勳局告示第一號 明治廿二年二月七日

勳章記章佩用心得

第一款 一等勳章ヲ有スル者更ニ別種ノ一等勳章ヲ受ケタル時ハ（旭日桐花章ト旭日章トハ同種ナリ併佩スルコトナシ）後ニ受ケタル一等勳章ノ正章並ニ其副章ト前ニ受ケタル一等勳章

ノ副章トナ併佩スヘシ

第二款 二等以下ノ勳章ヲ有スル者更ニ同種上級ノ勳章ヲ受ケタル時ハ其下級ノ勳章ヲ佩フルコトヲ止ム別種ノ同級若クハ上級ノ勳章ヲ受ケタル時ハ之ヲ併佩スヘシ

第三款 二等勳章若クハ一等ノ副章兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノ、位置ニ付テ其上位ニ列佩スヘシ

第四款 三等勳章兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノ、位置ノ上ニ佩フヘシ

第五款 四等勳章以下兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノ、位置ノ右ニ佩ヒ其後軍記章若クハ褒章ヲ有スル者ハ之ヲ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第六款 勳章ハ男子ハ大禮服及ヒ通常禮服(燕尾服)着用ノ時佩フヘシ從軍記章及ヒ褒章ヲ有スル者亦同シ

通常禮服用ノ時ハ大綬章ヲ上衣ノ下ニ佩ヒ其副章ヲ上衣ノ上ハ其位置ニ佩フ又大綬章ヲ胸衣ノ下襯衣ノ上ニ佩ヒ副章ヲ上衣ノ上ハ其位置ニ佩フルコトアリ時宜ニ依リ大綬章ヲ省キ其

副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ

旭 二等章ヲ有スル者通常禮服用ノ節ハ其副章ヲ省クコトアルヘシ

第七款 勳章ハ婦人ハ大中小禮服用ノ時佩フヘシ

一等勳章ヲ有スル者大禮服ニハ大綬章及ヒ副章ヲ佩フ中小禮服ニハ時宜ニ依リ大綬章ヲ省キ副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ又通常禮服ニハ時宜ニ依リ副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ

二等以下ノ勳章ヲ有スル者ハ通常禮服用ノ時ニ於テモ時宜ニ依リ之ヲ佩フルコトアルヘシ

外國勳章記章

第八款 外國勳章佩用方ハ各彼ノ規則ニ依ル

第九款 我勳章ヲ有スル者我勳章ヲ佩ヒシテ彼ノ勳章ノミヲ佩フヘカラス

第十款 彼我ノ大綬章ヲ有スル者ハ彼ノ大綬章ヲ佩ヒス之ニ属スル副章ノミヲ我副章ノ位置ノ下若クハ次ニ列佩スヘシ

但外交ノ時宜ニ依リ彼ノ大綬章及ヒ其副章ヲ佩フル時ハ我大綬章ヲ省キ我副章ハ併佩スヘシ

第十一款 彼我ノ綬ヲ用ヒサル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ下若シハ次ニ列佩スヘシ

第十二款 彼我ノ喉下ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ下ニ佩フヘシ

第十三款 彼我ノ左肋ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第十四款 彼ノ左肋ニ佩フル勳章ヲ我從軍記章及ヒ褒章ト併佩スル時ハ我從軍記章及ヒ褒章ヲ彼ノ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第十五款 彼ノ記章ト我從軍記章及ヒ褒章ト併佩スル時ハ之ヲ我從軍記章及ヒ褒章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

○宮城縣訓令第十三號 明治二十二年二月十日 郡 區
今般憲法發布式御舉行ニ付盛典ヲ表セラル、爲養老ノ思召ヲ以テ年齡八十歳以上ノ者へ金員下賜相成候ニ付傳達方取計フヘシ

但金員ハ別ニ送附ス
○宮城縣訓令第十四號 明治廿二年二月十四日 郡區町村

岡町村費ノ支辨ニ係ル事業コシテ里道敷堤塘敷水路敷等寄附地ノ地種組替ハ其事業ヲ管理スル郡區長戸長ヨリ稟申スヘシ

○宮城縣訓令第拾五號 明治廿二年二月十五日 郡縣立學校書籍館病院 地方稅現金取扱所

雜部金收入支出規則左ノ通之ヲ定メ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス
雜部金收入支出規則

雜部金收入支出規則

第一條 雜部金ノ現金ハ縣廳ニ於テ之ヲ管守シ所管長ノ任拂切符及納附書ニ依リ現金取扱所ニ於テ其收入支出ヲナスモノトス

第二條 雜部金トハ一時ノ取寄ニ属スルモノニシテ委託金ノ如キモノヲ云フ

第三條 所官長トハ地方稅收入支出規則ニ於テ定メタル當該官ヲ云フ

第四條 所管長ニ於テ雜部金ノ納入ヲナスキハ別紙書式ノ納附書ヲ製シ之ヲ納入ニ交付シ納入ヲシテ納附書ニ現金ヲ添ヘ現金取扱所ニ納附セシム

第五條 所管長ハ現金取扱所ヨリ納附書ノ通知ヲ受ケタルキハ納附書元帳ニ納濟ノ記入ヲナス

○宮城縣訓令第十六號

明治二十二年二月十五日

郡縣立學校書籍館病院

地方稅現金取扱所

明治二十年(三月)訓令第三十六號地方稅現金取扱所規程中左之通更正追加ス

第十條 別紙ノ二字ヲ第一號ノ三字ニ改ム

第十一條 現金取扱所ハ雜部金收入支出規則第十條ニ依リ所管長ヨリ送金ノ請求アルハ地方

稅收入規則第二十六條第十六號書式ニ依リ振換證書ヲ調製シ之ヲ所管長ニ送附スヘシ

第十二條 現金取扱所ハ雜部金收入濟ノ納附書及仕拂濟ノ仕拂切符並案内書ハ一ヶ月毎取纏メ

帳簿ノ收支額ニ照查シ第二号軸式ノ受拂報告書ヲ調製シ所管廳主任官ノ認印ヲ受ケ翌月五日

限リ之ヲ縣廳ニ送達スヘシ

但收入濟ノ納附書及仕拂切符等ハ現金取扱所ニ於テ保存スヘシ

第十三條 此規程ハ備荒儲蓄金及雜部金ノ出納ニモ亦之ヲ適用ス

第二號書式 ○印ハ會計主任官ノ印

明治何年何月中(官衙)雜部金受拂報告書

一金何圓。

內 金何圓。

一金何圓。

差引

殘金何圓。

右之通相違無之候也

納入高

前月ヨリ越高

仕拂高

本月納入高

翌月へ送高

何地現金取扱所

取扱人

何 某 印

年 月 日

宮城縣會計主務官宛

○陸軍省訓令甲第二號

明治二十二年二月十一日

各師團及廳府縣(除東京府)

勅令第十二號ニ依リ施行手續相定候條右手續ニ據リ施行ス可シ

大赦施行手續

第一條 勅令第十二號第一條ニ記載スル罪ヲ犯シタル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否トテ問ハス又
既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否トテ別ダス總テ赦免ヲ得ル者トス

第二條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終ヘサル者衛戍監獄ニ在ルトキハ監獄長
裁判宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル師團長若クハ旅團長ニ申報シ陸軍裁判所若クハ軍團
裁判所ニ於テ裁判宣告ヲ爲シタルモノハ第一師團長ニ申報ス可シ

罰金ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル者アルトキハ理事長官ノ認可ヲ得赦免ヲ得タル旨ヲ本人ニ
通知ス可シ

第三條 赦免ヲ得ヘキ者衛戍監獄以外ノ監獄ニ在ルトキハ司獄官前條ニ記載シタル長官ニ申報
ス可シ

第四條 赦免ヲ得ヘキ者假出獄ヲ許サレ營内ニ在ルトキハ所屬隊長第一條ニ記載シタル長官ニ
申報ス可シ

第五條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付キ監視若クハ特別監視執行中ノ者ハ執行地ノ警察官第一條ニ記載
シタル長官ニ申報ス可シ

第六條 師團長旅團長前數條ニ記載シタル申報ヲ受ケタルトキハ理事ニ付シ其調査ヲ爲サシメ
赦免ヲ得タルニ付キ釋放スヘキ旨ヲ通知ス可シ

第七條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付キ審問若クハ判決ニ著手中ノ者ハ陸軍治罪法ニ從ヒ免訴ノ處分ヲ
爲ス可シ

第八條 數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者若クハ數罪併科セラレ若クハ刑罰限内再ヒ罪ヲ犯
シ刑ノ宣告ヲ受ケタル者現ニ執行ヲ受ケタル罪ノ赦免ヲ得タルニ因リ更ニ赦免ヲ得サル罪ノ
刑ヲ執行スヘキトキハ赦免ヲ得タル罪ニ付キ執行シタル刑ヲ通算ス

前項ノ竊合ニ於テ更ニ執行スヘキ刑期金額裁判宣告書ニ疑点アルモノハ理事訴訟書類及ヒ例
證等ヲ調査シ長官ノ認可ヲ得刑期金額ヲ定ム可シ

第九條 勅令第十二号ニ照シ治安ヲ妨害スルノ目的ニ出テ若クハ政治ニ關スル意思ニ出テタル
等ノ區別ヲ審辨スヘキ犯罪ニ付テハ理事發行シタル新聞紙又ハ出版シタル文書圖書ノ性質其
他裁判宣告書ニ記載シタル事實ノ摸樣ニ因リ之ヲ査定ス可シ

第十條 師團長旅團長大赦ノ施行ニ付キ疑議アルトキハ陸軍大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フ可シ

第十一條 遠隔ノ地ヨリ大臣長官ニ稟請若クハ申報ヲ爲シ及ヒ長官遠隔ノ地ニ通知スルトキハ

電報ヲ用ユ可シ但電報ニテ事情ヲ悉クス能ハサルモノハ此限ニ在ラス

第十二條 大赦施行ノ處分ヲ爲シタル者ハ第一條ニ記載シタル長官ニ申報ス可シ長官ハ之ヲ陸

軍大臣ニ申報ス可シ

第十三條 免赦ヲ得ヘキ罪ニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ執行ヲ終ハリタル者ヨリ赦免ヲ得タレバ

證明ヲ請フトキハ理事事實ヲ調査シ長官ノ認可ヲ得證明ヲ與フ可シ

○縣令第十二號 明治二十二年二月十六日

有租地成免租地成願式ヲ定ムルノ左ノ如シ

但明治十四年甲第八號及九號布達明治二十年縣令第九十七號ハ自今廢止ス

第一條 官地拂下又ハ下ケ渡ヲ願出ルキハ明治十二年甲第三百三十二號布達第一例式ノ願ニ近傍

類地比較ノ地價調ヲ添付スヘシ但地圖ハ野取圖ニ調製スルモノトス

第二條 道路堤塘用惡水路其他ノ寄付ヲ願出ルトキハ第一號樣式ニ準シ殘地檢査ヲ願出ツヘシ

買上地ニ係ル殘地檢査願モ亦ダ本條ニ準ス

第三條 溜池溝渠其他新設ヲ要シ民有ノ儘地種變換ニ係ルモノハ共工事着手ノ年月ヲ記載シ第

二號樣式ニ準シ地種組換及殘地檢査願出ツヘシ

第四條 墓地火葬地斃牛馬埋沒地新設又ハ増設ヲ願出ツルキハ第三號樣式ニ準シ其殘地檢査ヲ

モ併セテ願出ツヘシ

第五條 前條々ノ願ニ關スル土地丈量法及野取圖比隣地價調ハ明治十七年甲第三十五號布達ノ

樣式ニ據ルヘシ

(第一號) ○ハ朱書

何々敷地寄附(又ハ買上地)殘地御檢査願

郡區町村字名雜番

地主

一何反別、、、、

何 某

此地價金、、、、

此地租金、、、、

。内

寄附地(又ハ御買上地)

反別、、、、

。此地價金、、、、

。此地租金、、、、

殘反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

内反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

郡區町村字何番

一何反別、、、、

。此地價金、、、、

。此地租金、、、、

丈量増

地主

何 某

。全筆寄附地(又ハ御買上地)

郡區町村字何番

一何反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

内

反別、、、、

。此地價金、、、、

。此地租金、、、、

殘反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

外反別、、、、

。此地價金、、、、

。寄附地(又ハ御買上地)

地主

何 某

。丈量減

○外幾筆ニテモ、渾テ此例ニ倣ヒ地邊限ニ取調尙地目限町村計ヲ附スヘシ
右ハ何々敷ニ係ル地所寄附致度候間御許可ノ上(又ハ何々御用ノ爲メ何年何月御買上相成候ニ
付)殘地御檢査成度野取圖添此段相願候也

郡區町村

年月日

願人 何 某印
全 何 某印

宮城縣知事宛

前書之通相違無之候也

年月日

戶長 何 某印

(第二號)

溜池又ハ何々)新設願

分裂ノ例

郡區町村字ノ地番

地主

何 某

一何反別、、、、
此地價金、、、、

此地租金、、、、

○内

○反別、、、、

○此地價金、、、、

○此地租金、、、、

○殘反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

内反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

丈量増

○溜池(又ハ何々)新設地

○但何年何月工事着手ノ見込

全平ノ里

郡區町村字名地番

地主

一何反別、、、、

何 某

此地價金、、、、

溜池(又ハ何々)新設地

此地租金、、、、

右ハ何々ニ付何年何月何日(又ハ記載ノ年月日ヨリ)工事著手致度候間御許可ノ上地種民有第二種ニ御組換殘地御檢査被成下度野取圖添此段相願候也

郡區町村

年月日

願人 何 某 印

宮城縣知事宛

前書之通相違無之候也

戶長 何 某 印

(第二號)

墓地(ハ何々總)新設(増設)願

郡區町村字名地番

地主

一何反別、、、、

何 某

此地價金、、、、

此地租金、、、、

内

反別、、、、

墓地新設(増設)出願地

此地價金、、、、

此地租金、、、、

殘反別、、、、

此地價金、、、、

此地租金、、、、

右ハ何々ニ付新設(増設)(設置ヲ要スル種由詳記スヘシ)致度尤モ該ヶ所ハ明治十八年甲第二號

布達ニ抵觸之塵毫モ無之候間御許可之上殘地御檢査被成下鹿野取圖添此段相願候也

郡區町村惣代

年月日

何 某印
(惣代二名以上連署スヘシ)

宮城縣知事宛

前書之通相違無之候也

年月日

戸長 何 某印

廳 府縣

○大藏省訓令第三號

明治二十二年二月八日

今般開令第四號ヲ以テ官吏傭員ニ文具代價渡ノ儀發令相成候ニ付テハ右支給方法ハ各廳ニ於テ適宜指定スヘシ又從來貸渡者クハ已ニ買入タル分ハ相當代價ヲ以テ本人ノ望ニヨリ拂下クルモ妨ケナシ

但明治七年營省第六十九號達ハ開令施行ノ日ヨリ廢止ス

○海軍省訓令第一號

明治廿二年二月十一日

橫須賀鎮守府司令長官
廳府縣(東京府ヲ除ク)

勅令第十二號第五條ニ依リ施行手續規定條右手續ニ依リ施行ス可シ
大赦施行手續

第一條 勅令第十二號第一條ニ記載スル罪ヲ犯シタル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否トチ問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否トチ別ダス總テ赦免ヲ得ル者トス

第二條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ宣告ヲ受テ其執行ヲ終ヘサル者海軍監獄ニ在ルトキハ監獄署長橫須賀鎮守府司令長官ニ申報ス可シ
罰金ノ宣告ヲ受テ未ダ納完セサル者アルトキハ主選同司令長官ノ認可ヲ得赦免ヲ得タル旨ヲ本人ニ通知ス可シ

第三條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付海軍法衙ニ於テ刑ノ宣告ヲ受タル者海軍部外ノ監獄ニ在ルトキハ司獄官橫須賀鎮守府司令長官ニ申報ス可シ

第四條 赦免ヲ得ヘキ者假出獄ヲ許サレ艦船營内ニ在ルトキハ艦船營長其所屬司令長官若クハ司令官ニ申報ス可シ

司令長官若クハ司令官ハ他ノ司令長官若クハ司令官管轄ノ軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ爲シテ

ル者ニ係ルトキハ其司令長官若クハ司令官ニ協議ス可シ

第五條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付監視若クハ特別監視執行中ノ者ハ執行地ノ警察官横須賀鎮守府司令長官ニ申報ス可シ

第六條 横須賀鎮守府司令長官前數條ニ記載シタル申報ヲ受ケタルトキハ主理ニ付シ其調査ヲ爲サシメ赦免ヲ得タル旨ヲ通知ス可シ

第七條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付審問若クハ判決ニ著手申ノ者ハ海軍治罪法ニ從ヒ免訴ノ處分ヲ爲ス可シ

第八條 數罪俱發例ニ依リ處斷セヨレタル者若クハ數罪併科セラレ若クハ刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ刑ノ宣告ヲ受ケタル者現ニ執行ヲ受ケタル罪ノ赦免ヲ得タルニ因リ更ニ赦免ヲ得サル罪ノ刑ヲ執行スヘキトキハ赦免ヲ得タル罪ニ付執行シタ。刑ヲ通算ス

前項ノ場合ニ於テ更ニ執行スヘキ刑期金額裁判宣告書ニ疑点アルモノハ主理訴訟書類及ヒ例證等ヲ調査シ司令長官ノ認可ヲ得刑期金額ヲ定ム可シ

第九條 勅令第十二號ニ照シ治安ヲ妨害スルノ目的ニ出テ若クハ政治ニ關スル意思ニ出テタル等ノ區別ヲ審辨スヘキ犯罪ニ付テハ主理發行シタル新聞紙又ハ出版シタル文藝圖書ノ性質其他裁判宣告書ニ記載シタル事實ノ模様ニ因リ之ヲ査定ス可シ

第十條 司令長官若クハ司令官大赦ノ執行ニ付疑議アルトキハ海軍大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フ可シ

第十一條 前數條ニ依リ大臣司令長官若クハ司令官ニ申報シ及ヒ司令長官司令官遠隔ノ地ニ通知スルトキハ電報ヲ用ユ可シ但其事情ヲ悉クス能ハサルモノハ此限ニ在ラス

第十二條 大赦執行ノ處分ヲ爲シタル者ハ横須賀鎮守府司令長官ニ申報ス可シ司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ申報ス可シ

第十三條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ執行ヲ終リタル者ヨリ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ請フトキハ主理事實ヲ調査シ司令長官ノ認可ヲ得證明ヲ與フ可シ

○司法省訓令第三號 明治廿二年二月十一日 檢事長 檢事 廳府縣(東京府ヲ除ク)本年勅令第十二號ヲ以テ大赦ノ儀發布相成後ニ付テハ右施行方左ノ手續ニ從フヘシ
大赦施行手續

第一條 本年勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ヲ犯シタル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否トテ問
ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否トテ別ダス總テ赦免ヲ得ル者トス

第二條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ其言渡未ク確定セサル者言渡確定スルモ未ク其執
行ニ着手セサル者及ヒ其執行中ニ係ル者ニ對シテハ原裁判所ノ檢察官ヨリ速ニ赦免ヲ得タル
旨ヲ通知シ監獄中ノ者ハ之ヲ赦免スヘシ

第三條 微罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者若シハ微罪併科セラレタル者又ハ刑期限内再ヒ罪
ヲ犯シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者赦免ヲ得タルニ因リ更ニ赦免ヲ得サル罪ノ刑ヲ執行スヘキトキ
ハ赦免ヲ得タル罪ニ付執行シタル刑ヲ通算ス

若シ數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者ノ裁判官渡ニ疑点(裁判官渡中赦免ヲ得タル罪ノ
ニ付刑期金額ヲ示シ其他ノ罪ニ付テハ之ヲ示サ、ルノ類)アルトキハ檢察官ヨリ刑ノ言渡ヲ
爲シタル裁判所ニ其說明ヲ請テヘシ

第四條 赦免ヲ得ヘキ囚人原裁判所ノ管轄地外ノ監獄ニ在ルトキハ典獄ヨリ最近ノ始審裁判所
(本館又ハ支廳)檢察官ニ通知スヘシ

通知ヲ受ケタル檢察官ハ第二條ノ處分ヲ爲スヘシ若シ其囚人ノ裁判官渡ニ付原裁判所ノ說明
又ハ訴訟書類ノ取調ヲ要シ直ニ處分ヲ爲シ難キ場合ニ於テハ其事件ヲ原裁判所ノ檢察官ニ送
致スヘシ

通知ヲ受ケタル檢察官第二條ノ處分ヲ爲シタルキハ其旨ヲ原裁判所ノ檢察官ニ通知スヘシ
第五條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付監視又ハ特別監視執行中ニ係ル者ハ執行地ノ警察官ヨリ原裁判所
ノ檢察官ニ通知スヘシ若シ其執行總原裁判所ノ管轄地外ニ係ルトキハ最近ノ始審裁判所(本
廳又ハ支廳)檢察官ニ通知スヘシ

通知ヲ受ケタル檢察官ハ監視又ハ特別監視ヲ免スルノ手續ヲ爲スヘシ
第六條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付豫審又ハ公判中ニ係ル事件ニ付テハ檢察官(上訴中ノ事件ニ付テ
ハ其上訴ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官)ヨリ公訴ヲ拋棄スルノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終リタル者ヨリ赦免ヲ得タル旨ノ證
明ヲ請フトキハ檢察官ニ於テ事實ヲ精査シ證明ヲ與フヘシ

第八條 勅令第十二號第一條第十九項第二段及ヒ第二十項第二段ニ記載シタル犯罪ニ付テハ檢

察官ニ於テ發行シタル新聞紙又ハ出版シタル文書圖書ノ性質其他裁判官渡ニ認メタル事實ニ
因リ政治ニ關スル意思ニ出テタル者ナルト否トヲ査定スヘシ

第九條 大赦ノ施行ニ付疑ヒアルトキハ檢察官ヨリ速ニ司法大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
第十條 大赦ノ施行ニ關スル處分ハ檢察官ヨリ速ニ司法大臣ニ報告スヘシ

○内務省告示第三號 明治二十二年二月十二日

明治二十年第四號告示地方測候所ノ位置左ノ通變更ス

廢止

北海道廳ノ内襟裳
宗谷

新設

北海道廳ノ内上川
網走
釧路
稚内

○陸軍省告示第一號 明治二十二年二月十一日

勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付キ刑ノ宣告ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終リタル者ニシテ赦免
ヲ得タルノ證明ヲ得ント欲スルトキハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ理事ニ申出テ陸軍裁判所

若シハ軍醫裁判所ニ於テ其宣告ヲ受ケタル者ハ第一師管軍法會議ノ理事ニ申出ツ可シ

○海軍省告示第三號 明治二十二年二月十一日

勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付キ海軍法術ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ終リタル者
ニシテ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ得ント欲スルトキハ横須賀鎮守府軍法會議ノ主理ニ申出ツ可シ

○司法省告示第二號 明治二十二年二月十一日

本年勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終リタル者ニシテ赦
免ヲ得タル旨ノ證明ヲ得ント欲スルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ申出ツヘシ

但明治十四年以前司法省控訴九州其他ノ臨時裁判所ニ於テ處斷ヲ受ケタル者ハ大審院檢事
長ニ申出ツヘシ

○法律 明治二十二年二月十二日

朕海軍治罪法ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第五號

海軍治罪法左ノ通改正シ明治二十二年三月十五日ヨリ施行ス

海軍治罪法

第一章 總則

第一條 軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス

海軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限り之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ

陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第四條 長官ト稱スルハ海軍大臣及ヒ司令官ヲ謂フ

司令官ト稱スルハ鎮守府司令長官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第四百十四條第四百十五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第百

條第百一條第百三十三條第三項第百四十六條第百五十六條第二百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

東京軍法會議

鎮守府軍法會議

艦隊軍法會議

高等軍法會議

合圍地軍法會議

東京軍法會議及ヒ各鎮守府軍法會議ハ常設ト爲シ艦隊軍法會議ハ臨時各艦隊ニ之ヲ設ケ高等軍法會議ハ臨時東京ニ之ヲ設ケ合圍地軍法會議ハ臨戰合圍ノ戒嚴間ニ之ヲ設ク

第十條 軍務會議ハ判士長判士主理若クハ主理試補及ヒ録事ヲ以テ構成ス
 第十一條 判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ據リ他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據
 リ將校ヲ以テ之ニ充ツ
 隨戰合圍ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

第一表

判士長	判士	被	告	人
判官 一名	尉官 四名	陸海軍下士以下ノ軍人		
佐官 一名	大尉 二名 少尉 二名	海軍少尉及同等ノ陸海軍人 并ニ准士官		
佐官 一名	大尉(委任官四等) 二名 大尉(同) 五等) 二名 少佐 二名	海軍大尉(委任官四等)及ヒ 同等ノ陸海軍人		
大佐 一名	少佐 二名 大尉(委任官四等) 二名 大佐(委任官二等) 二名	海軍大尉(委任官四等)及ヒ 同等ノ陸海軍人		
大佐(委任官一等) 一名	少佐 二名 大尉(委任官二等) 二名 大佐(委任官一等) 二名	海軍大尉(委任官四等)及ヒ 同等ノ陸海軍人		
少將 一名	大佐(委任官一等) 二名 大佐(同) 二名	海軍大佐(委任官二等)及ヒ 同等ノ陸海軍人		

第二表

判士長	判士	被	告	人
判官 一名	尉官 四名	陸海軍下士以下ノ軍人		
佐官 一名	大尉 二名 少尉 二名	海軍少尉及同等ノ陸海軍人 並ニ准士官		
佐官 一名	大尉(委任官四等) 二名 大尉(同) 五等) 二名 少佐 二名	海軍大尉(委任官四等)及ヒ 同等ノ陸海軍人		
大佐 一名	少佐 二名 大尉(委任官四等) 二名 大佐(委任官二等) 二名	海軍大尉(委任官四等)及ヒ 同等ノ陸海軍人		
大佐(委任官一等) 一名	少佐 二名 大尉(委任官二等) 二名 大佐(委任官一等) 二名	海軍大尉(委任官四等)及ヒ 同等ノ陸海軍人		
少將 一名	大佐(委任官一等) 二名 大佐(同) 二名	海軍大佐(委任官二等)及ヒ 同等ノ陸海軍人		

中將

一名 少將 二名若シハ一名 海軍大佐(奏任官一等)及ヒ
大佐(奏任官一等) 二名若シハ三名 同等ノ陸海軍人

第十二條 軍人ニ非サル者ヲ軍法會議ニ於テ審判ス可キキハ其身分ニ依リ前條ノ各表ニ照シテ判士長判士ヲ定ム

第十三條 外國又ハ戰地ニ數隻ノ艦船ヲ差遣スルトキハ海軍大臣其先任艦長ニ軍法會議ヲ開シノ權ヲ附與スルコトヲ得此場合ニ於テハ其權限艦隊司令官ニ同シ

第十四條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ海軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキ東京ニ於テハ海軍大臣之ヲ命シ鎮守府若シハ艦隊ニ於テハ司令官其部下中ヨリ之ヲ命ス

艦隊ニ於テ判士ト爲ル可キ將校缺乏スルトキハ准將校ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

鎮守府若シハ艦隊ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲スヲ要スルトキハ司令官ノ上申ニ依リ海軍大臣之ヲ命ス

第十五條 艦隊軍法會議ニ於テハ司令官部下ノ將校准將校ヲシテ主理ノ職務ヲ行ハシメ士官若クハ下士ヲシテ録事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十六條 合圍地軍法會議ノ判士長判士ハ司令官其部下中ヨリ之ヲ命ス

第十七條 陸戰合圍ノ地ニ於テハ司令官專任判士ヲ命スルコトヲ得又部下ノ下士ヲシテ録事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

合圍ノ地ニ於テハ司令官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若シハ主理ニ充テ發任官ヲ以テ録事ニ充ツルコトヲ得

第十八條 判士長判士主理左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得ス

一 被害者被害者及ヒ其配偶者ノ親屬

二 被告人被害者ノ後見人

三 告發人被害者及證據ヲ陳述シタル者

第十九條 原裁判ニ從事シタル判士長判士主理ハ再議及ヒ再審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス海軍檢察ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其事件ノ審判ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條ノ場合ニ於テ審問ヲ爲シタル者ニハ其事件ノ判士長判士ヲ命スルコトヲ得ス

第二十條 第十四條第四項ノ場合ニ於テ海軍大臣ハ判士長判士ヲ命セスレテ被告人ニ他ノ當殿

ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第二十一條 東京軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

一 司令官ノ部下ニ屬セサル佐官以下ノ軍人其他海軍ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ重罪輕罪ヲ犯シタル者

二 第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル者

第二十二條 鎮守府軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

一 鎮守府司令長官ノ部下ニ屬スル佐官以下ノ軍人其他鎮守府ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ重罪輕罪ヲ犯シタル者

二 第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル者

第二十三條 艦隊軍法會議ハ艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官ノ部下ニ屬スル佐官以下

ノ軍人其他從軍諸員及ヒ艦隊ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ重罪輕罪ヲ犯シタル者ヲ審判ス
艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官ハ時機ニ依リ前項ニ記載シタル者ノ審判ヲ常設ノ軍

法會議ニ委スルコトヲ得

艦隊ニ屬スル艦艇長ハ事件急遽ヲ要スル場合ニ於テハ處テ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其事由ヲ速ニ其艦隊司令長官艦隊司令官若クハ分遣艦隊司令官ニ報告ス可シ

第二十四條 艦隊若クハ數隻ノ艦船外國ニ出發ノ後其司令官若クハ先任艦長ノ部下ニ屬スル者内國ニ在テ犯罪發覺シタルトキハ本人所在ノ地最近ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス可シ

第二十五條 佐官以下ノ軍人軍法會議所比ノ郡区内ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ管轄外ノ者ト雖モ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第二十六條 高等軍法會議ハ將官若クハ其同階軍人ノ犯シタル重罪輕罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス

第二十七條 合圍地軍法會議ハ第二十一條第二十二條第二十三條ニ記載シタル者ノ臨戰合圍ノ地ニ在リテ犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス

第二十八條 合圍地軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ海軍刑法ヲ以テ論ス可キ罪ヲ犯シタルキハ其審判ヲ爲スコシ合圍ノ地ノ特別裁判權ハ戒嚴令定ムル所ニ依ル

第二十九條 臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ被告人ノ身分ニ拘ハラス其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第三十條 俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十一條 軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官現役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官現役中ノ犯罪ト雖モ免官若シハ現役ヲ去リタル後告訴發アリタルハ普通裁判所ノ裁判ニ付ス

第三十二條 軍人二人以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニシテ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先キニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス陸軍軍人ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキモ亦同シ

第三十三條 數罪俱ニ發シテ各其管轄ヲ異ニシ又ハ審判中裁判官管轄變更シタルトキハ既ニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十四條 重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帶シ若クハ重罪輕罪ト認メ審判ニ著手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十五條 合圍地軍法會議ヲ廢スルトキ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章 海軍檢察

第三十六條 海軍檢察ハ海軍ニ關スル犯罪ヲ捜査シ證據ヲ收集ス

第三十七條 海軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 艦船營副長分隊長
- 二 生徒隊司令官生徒分隊長及ヒ學校監事
- 三 衛兵司令

四 軍法會議ノ主理及ヒ主理試補

第三十八條 各廳長及ヒ艦船營長ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ海軍檢察官ニ其處分ヲ委ヌ可シ

第三十九條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢察司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得

第四十條 何人ヲ論ゼズ軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ告發スルコトヲ得

第四十一條 海軍所屬ノ官吏職務ヲ行フコト因リ軍人及ヒ海軍ノ用ニ供スル船舶乗員ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ第二十九條ニ記載シタル諸官ニ告發ス可シ

第四十二條 憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第四十三條 海軍檢察官憲兵ノ將校下士卒又ハ司法警察官巡査ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第四十四條 何人ヲ論ゼズ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得其逮捕シタル者ハ海軍檢察官又ハ司法警察官若クハ憲兵卒巡査ニ之ヲ交付ス可シ

第四十五條 憲兵卒巡査現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ之ヲ引致ス可シ

第四十六條 海軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ各廳長艦船營長現行犯ノ軍人ヲ逮捕シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ海軍檢察官ニ委シ若クハ憲兵ノ將校下士ニ囑託スルコトヲ得

第四十七條 海軍檢察官各廳長艦船營長現行犯人ヲ逮捕シ若クハ其檢證處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十八條 海軍檢察官及ヒ各廳長艦船營長軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十九條 憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作り海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

第五十條 告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更セシコトヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 海軍檢察官各廳長艦船營長檢察ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件ニ證憑物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ但艦隊ニ於テハ被告人所屬ノ艦船長ヲ經由テ可シ

二 違警罪ト認ムルトキハ之ヲ管轄ス可キ官司ニ交付ス可シ

三 裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ之ヲ該事件ヲ管理ス可キ長官部下ノ海軍檢察官ニ送致シ陸軍軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢察官ニ送致ス可シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ

四 高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノナルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ

第五章 審問

第五十二條 長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若シハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セ人ト認ムルトキハ直チニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

二 審問若シハ審判若シハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ主理ニ下付ス可シ

第五十三條 主理審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ

罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ノ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第五十四條 主理ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ勾引狀ヲ發スルヲ得

第五十五條 主理ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若シハ逃走ノ恐アルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若シハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行スルノ恐アルトキハ直チニ勾引狀ヲ發ス可シ

第五十六條 主理ハ召喚狀若シハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニアルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若シハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得又其地ノ主理海軍檢察官若シハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ召喚狀ノ送達勾引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十七條 勾引狀ヲ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ受スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十八條 主理ハ召喚狀若シハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應ズル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ

地ニ在ルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條 主理ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校及ヒ各控訴院ノ檢察長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 主理ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得
收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁ヲ要セサルモノト認ムルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第六十一條 勾引狀收禁狀ハ憲兵若クハ軍屬ヲテ之ヲ執行セシム可シ
勾引狀ヲ受シ可キ被告人艦船營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

陸軍營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ
勾引狀ヲ執行スルニ方リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認ムルトキハ其地ノ戶長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ

求ムルニ暇アラス若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 主理ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得

其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十三條 主理ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受關放スルコトヲ得

其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十四條 主理ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナルトキハ主理其所在ニ就キ陳述ヲ聽シ可シ

證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ主理其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ヲアルトキハ第六十二條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十五條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽シ得

- 一 被害者
- 二 被害者及ヒ被告人ノ親屬
- 三 被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受クル者
- 四 被害者及ヒ被告人ノ雇人
- 五 現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ曾テ訴ヲ受テ證憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者
- 六 重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ付セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ旨渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ付セラレタル者
- 七 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者
- 八 十六歳未満ノ者
- 九 知覺精神ノ不充分ナル者
- 十 瘡痍者

第六十六條 主理被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ録事之ニ立會ヒ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ總取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ主理ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ録事ヲシテ其旨ヲ記セシム可シ急遽ノ際若クハ事故アリテ録事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 主理犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但第六十五條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十八條 主理ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲スコキヲ宜誓セシム可シ

主理ハ證人通事鑑定人ニ宣讀書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルハ録事ヲ其旨ヲ附記セシム可シ
宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第六十九條 主理ハ證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セシテ呼出ニ應セサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ

第七十條 前項ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ

前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第七十條 主理ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法第八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

證人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代官人辨護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關スル秘密ノ事件ニ因リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第七十一條 主理ハ通事宜誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルトキ又ハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第七十二條 主理ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十九條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第七十三條 證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シタル罰金ヲ完納セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第七條ニ依リ主理之ヲ爲ス可シ

第七十四條 主理ハ被告事件ニ關スル調書説明ノ爲メ其調書ヲ作りタル海軍檢察官又ハ司法警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十五條 主理審問ニ於テ共犯附帯犯若クハ餘罪ヲ覺察シタルトキハ直ニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帯犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十六條 軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證憑物件ヲ添ヘ其共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シ

第七十七條 主理ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ書付スルコトヲ得但艦船營内居住ノ者ハ書付

スルノ限ニ在ラス

第七十八條 主理審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問終リ若クハ判決ノ命令ヲ受ケタ

ルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作り訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長

ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ

二 裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下

シタル長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同ハ

第七十九條 長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認ムルトキハ更ニ

判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章 判決

第八十條 軍法會議ハ判士長判士主理錄事列席シテ之ヲ開クヘシ

第八十一條 判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

主理其審問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十二條 判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコト

ヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其處分

ヲ爲サシメ調書及ヒ證憑文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ但其犯人被告人ナル

トキハ本案事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第八十三條 判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人通事鑑定人ヲ要シ若クハ調書説明ノ爲メ官吏

ノ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第八十四條 證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命ゼラレタル者疾病其他正當ノ

事故ナクシテ呼出ニ應ゼサルトキハ主理ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科

ス可シ

一 違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料

二 輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第八十五條 判士長ハ證人專實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可

シ

主理其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十六條 判決ノ爲メ更ニ檢證處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士

又ハ主理ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ主理ニ移シテ其審問ヲ爲

サシム可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シ

タル長官ニ具申ス可シ

第八十七條 被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キコトヲキヤ

否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ爲ス可シ

第八十八條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セズ若クハ其逃走ニ因

リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷

ノ日時ニ出廷セサルトキハ缺席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十九條 數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中缺席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對

シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第九十條 主理ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ説明スヘシ

會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得

其判決法律ニ違ヒ再議ス可キ理由アリト認ムルトキハ之ヲ其判決ノ命令ヲ下シタル長官ニ具

申ス可シ

第九十一條 判決書ハ主理左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事ト共ニ署名捺印シ訴訟文

書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

一 判決ノ理由

二 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條

三 無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ其違ナリシコト若クハ被告事件罪トナラ

サルコト若クハ犯罪ノ證據備フサルコト

四 免訴ノ判決書ニハ公訴期滿免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五 管轄違ヒノ判決書ニハ其旨

六 私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七 被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齡住所判決ノ年月日

第九十二條 長官左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添へ海軍大臣ニ具申シ其他ハ裁判宣告ノ命令ヲ下ス可シ

一 死刑ニ該リタルトキ

二 佐官及ヒ同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三 尉官及ヒ同等軍人ノ重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第九十三條 海軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及其ヒ同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノハ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏スベシ

其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第九十四條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官第九十二條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十五條 長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ナキモノハ意見書ヲ附シテ海軍大臣ニ具申ス可シ

第九十六條 海軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム可シ

第九十七條 裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士主選錄事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

闕席裁判ノ宣告ハ被告人闕席ノマ、之ヲ爲ス可シ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セス若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキモ亦同シ

第九十八條 禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ闕

席ノマ、宣告アリタルトキハ主理逮捕状ヲ發ス可シ
逮捕狀執行ノ方法ハ勾引狀執行ノ例ニ從フ若シ其所在分明ナラサルトキハ第五十九條ノ例ニ
依ル

第九十九條 被告人闕席ノマ、宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ揭示シ其一
通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第一百條 外國若シハ航海中ニ於テ司令官又ハ艦船長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル下士卒ニ戴罪
服務ヲ命スルコトヲ得

戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第七章 再審

第一百一條 海軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若シハ法律ニ定ムル
所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ
知リタルキハ再審ヲ爲サシム可シ

第一百二條 軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ル、モノアルトキハ主理及ヒ被告人ヨリ再

審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得

被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

- 一 人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者犯罪後現ニ生存
シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ
 - 二 同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノアリタルトキ
 - 三 公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ
 - 四 既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ
 - 五 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ
 - 六 公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ
- 第一百三條 海軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ
長官其實事ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ具申ス可シ
- 第一百四條 再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲ス可シ艦隊軍法
會議高等軍法會議合圍地軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ナルトキハ海軍大臣ニ其申訴

ヲ爲ス可シ

主理其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證據書類ヲ添フ可シ
被告人若シハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ主理ニ出シ主理意見書ヲ添フ可シ
長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ
海軍大臣再審ノ申訴若シハ具申ヲ受ケタルトキハ之ヲ再審セシム可シ

第百五條 海軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第百六條 再審ヲ爲シタル事件竊ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第八章 復權

第百七條 復權ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ經過シタル後刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヨリ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

其復權願書ハ二通ヲ作り本人署名捺印シ左ニ記載シタル書類ヲ添ヘ郡區長ニ出シ郡區長願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意見書ヲ添ヘ海軍大臣ニ出ス可シ

一 裁判宣告書ノ謄本

二 主刑ノ滿期若クハ特赦若クハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類

三 假出獄及ヒ假リニ幽閉若クハ監視ヲ免セラレタルコトアルトキハ其證書

四 賠償ヲ辨濟シ若クハ義務ヲ免カレタル證書

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第百八條 海軍大臣復權ノ願ニ關スル書類ヲ受領シタルトキハ主理ヲシテ更ニ必要ノ調査ヲ爲サシメ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第百九條 復權ノ願裁可アリタルトキハ海軍大臣主理ヲシテ地方長官ヲ經テ裁可狀ヲ本人ニ傳達セシム可シ

主理ハ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テハ之ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

第百十條 復權ノ願棄却セラレタルトキハ海軍大臣願書ニ其旨ヲ記シタル書面ヲ附シ主理ヲシテ前條第一項ノ處分ヲ爲サシム可シ

復権ノ願棄却セラレタルトキハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニアラサレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 特赦

第百十一條 特赦ノ申請ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官又ハ主理若シハ司獄官ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得主理其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ之ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ

司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ主理ノ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ

艦隊軍法會議若シハ合圍地軍法會議ニ於テ裁判宣告ヲ受ケタル者ノ特赦ノ申請ハ主理ヨリ直チニ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

第百十二條 海軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第百十三條 海軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時コトモ特赦ノ上奏ヲ爲スコトヲ得

第百十四條 特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除クノ外刑ノ執行ヲ停止セス

第百十五條 特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ海軍大臣特赦狀ヲ其申請ヲ爲シタル諸官ニ下付シ本人ニ之ヲ傳達セシム可シ

主理ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

○内務省訓令第四號 明治二十二年二月十六日 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

郡區吏員給料殘額ノ儀据置不苦旨相違置候府縣モ有之候處右ハ二十二年度限り廢止候條二十二年度及累年ノ殘額ハ翌々年度ノ雜收入ニ編入セラルヘシ

○農商務省訓令第八號 明治二十二年二月十六日 北海道廳 府縣

明治十五年(二月)當省第二號達種牛馬貸與規則自今廢止ス

○農商務省訓令第九號 明治二十二年二月十六日 北海道廳 府縣

從前貸與シタル種畜ヨリ蕃殖セシ牛馬ノ種類及牝牡ヲ區分シ其頭數本年六月限當省へ届出ヘシ

○農商務省告示第三號 明治二十二年二月十六日

明治十八年(三月)當省告示第三號羊毛買上手續本年三月限廢止ス

○内務省訓令第五號

明治廿二年二月二十一日

北海道廳 府縣

迷兒ハ棄兒ニ準シテ取扱ヒ寮元發見シ若シ其費用辨償ノ資力ナキトキハ養育費ヨリ支辨スヘシ
但本文ニ抵觸スル從前ノ指令等ハ取消ス

○縣令第十三號

明治廿二年二月二十三日

明治十四年(十一月)甲第七十七號布達ヲ廢止ス

○宮城縣訓令第十七號

明治廿二年二月二十三日

郡區町村

明治二十二年度地方稅中營業稅雜種稅賦課手續ヲ定ムルコト左ノ如シ
但明治廿一年(三月)訓令第十九號ハ廢止ス

營業稅雜種稅賦課手續

第一條 營業稅雜種稅賦課規則第八條ノ申告書ハ第一號式ニ據ラシメ戶長ハ其精査ヲ遂ケ之ニ
合計ヲ付シ郡長ニ差出スヘシ但四月一日後新ニ營業ヲナス者ノ申告書モ亦同シ

第二條 郡區長ニ於テ前條ノ申告書及漁業稅採藻稅區畫場收入見積金高ノ申告書ヲ審查シ其不
相當ナキヲ視認スルルハ第二號式ニ依リ其調書ヲ調製シ知事ニ差出スベシ

第三條 郡區長ハ第三號式ニ據リ營業鑑札ヲ製シ之ヲ營業人ニ下附シ廢業ノ際返納セシムベシ
但船車及日稅ニ係ル種類並海面漁業採藻河川區畫場ノ全上ノ營業ハ此限ニアラス

第四條 區戶長ニ於テ日稅ニ係ル市場演劇興行等ノ屆書ヲ受ク時ハ豫算ヲ以テ其稅金ヲ徵收
シ閉場後日數二日以内ニ其計算調ヲ徵シ戶長之ヲ決算シ納入ノ手續ヲナスベシ

第一號式

營業御届

一何營業

一々年收入見積金何程(收入見積金高ニ據ラサル營業者ハ之ヲ除ク)

二何營業

全 全

計金何程

右之通候也

年 月 日

右

區戶長宛

第二號式

地方稅營業稅雜種稅調查高稟申

豫算金

一金

內譯

豫算金

金

內

金

全業惣代

何

某

何

某

營業稅

商業

一等何人

二等以下之ニ全シ

替廻受買及麴室何人

二項行商何人

三四項行商之ニ全シ

工業

一等職工何人

二等以下之ニ全シ

雜種稅

豫算金

一金

內譯

豫算金

金

豫算金

金

內

金

金

料理屋何人

内

金

一等何人

二等以下之ニ全シ

豫算金

金

待合茶屋

何人

以下各項ハ之ニ準シ記載スベシ

豫算金

金

漁業税

内譯

海區畫場何ヶ所

収入見積金何程

金

海面共同場

内

金

家族雇人共從事スルモノ二人以下何人

金

全三人以下從事スルモノ何人

以下之ニ準シ河川並採藻モ之ニ準シ記載スベシ

豫算金

計金

但雜種税中市場興行舟車屠畜ヲ除ク

右明治二十二年四月一日現在調査高書面之通候也

年月日

郡區長

知事宛

第三號式

木製寸法前年度ノ通

郡區役所燒印

番號
工業
何郡何町番地
何區何村番地
誰

雜種稅ハ
其業名ヲ
記載スヘ
シ

番號
行商鑑札
住所番地
姓名

裏何郡區役所

行商及出稼(幫
間及藝妓ハ除
ク)鑑札ハ其種
類ヲ記載スヘシ
河川池沼溝渠ノ
共同場ニ於テ漁
業採藻ヲナスモ
ノモ之ニ準ス

○農商務省訓令第十號

明治廿二年二月二十三日

府 縣

鐵山試掘借區通洞及採取ニ關スル諸願書自今副本差出スニ及ハス

○內務省告示第四號

明治廿二年二月二十二日

明治十八年(二月)第六號告示國道表第六號中路線變換ニ付有壁ヲ除ク

○隱令第五號

明治廿二年二月二十五日

外務省派遣清國留學生卒業者ニシテ在清國公使館領事館及ハ在香港領事館附語學生ト爲リ事務ヲ練習シタル者ハ該ニ同省判任官ニ任スルコトヲ得

○大藏省令第三號

明治廿二年二月二十六日

流通不便ノ金銀銅貨ハ本年四月一日以後當省金庫局及同局大阪出張所ニ於テ左ノ區別ヲ以テ交換スヘシ但手數料ハ徴収セス

一量目減少セサル者
一量目減少セラル者

全額
現存價格

○宮城縣訓令第十八號

明治廿二年二月二十八日

小學校長 訓導

本年(二月)訓令第四號小學校職員一定ノ着服ハ自今縣内限リ通常禮服ニ換用スルハ苦シカラス

○正誤

去廿九日勅令第五號第四條五行目得ノ下「」ヲ脱ス
 本縣訓令第十二號翌月五日限り差出候諭ノ下右賣捌人ハ各賣捌人ノ行又同第十一號第八條ニ準
 ヲノ下賦金ヲ免許スル義ハ賦金ヲ免除スル義ノ行
 縣令第八號別紙二丁五行目福田村ハ福岡村、七丁十一行目杉山村ハ松山村ノ誤植
 去月四日農商務省告示第一號第六條中第二十五條ハ第二十條ノ誤
 去ル十一日官報號外憲法第一紙中明治十四年十月十四日ハ二十日ノ誤寫ナリ
 本縣訓令第十四號別紙書式中乙號一金何圓但何々ノ下(何年何月何日領収)ノ九字ハ衍
 本月九日訓令第三號ハ訓令第十三號及同十四日訓令第十三號ハ第十四号同十五日訓令第十四號
 ハ第十五號同日訓令第十五號ハ第十六號ノ誤
 本縣々令第十二號第一號總式中末項此地價金ノ次ニ(此地租金、)、)ヲ脱シ同第八號別紙
 十一頁初項「米山村」ハ「米山村」ノ誤リ
 去ル十一日官報號外三頁陸軍省訓令甲第二號第四條第五條第十二條中「第一條」ハ「第二條」ノ誤
 縣令第八號別紙黒川郡新町村名南大谷村ノ南ハ衍

縣令第八號

管下町村中本年三月三十一日ヲ以テ其區域及名稱ヲ更正スルコト別紙ノ如シ
 明治廿二年二月九日
 宮城縣知事松平正直

縣令第九號

管下仙臺區及宮城郡名取郡中本年三月三十一日ヲ以テ境界ヲ變更スルコト左ノ如シ
 明治廿二年二月九日
 宮城縣知事松平正直
 一名取郡長袋村ノ内字白澤及道半ノ内土地反別七町四反六畝步ヲ宮城郡廣瀬村ニ編
 入ス
 一宮城郡荒卷村ノ内字山上清水、瀧前、宮裏、上郡山、中ノ澤、土地反別六町五反六畝
 四步戸數二十八同郡小田原村ノ内字小野田、杉山、土地反別七反六畝三步同郡南目
 村ノ内字柳澤、二軒茶屋、土地壹反二十三步同郡南小泉村ノ内字八軒小路、行人塚、
 五ッ谷、桃源院、鍛冶屋敷、廣瀬川橋下、土地反別三十六町四反四畝十五步戸數五
 十三名取郡長町村内字大窪谷地ノ内土地反別五町八反四畝十九步ヲ仙臺ニ編入ス

一仙臺區内宮澤土地反別三町五反六畝二十一步戸數一ヲ名取郡茂ヶ崎村ニ編入ス
一仙臺區北六番丁ノ内土地反別一反二畝十三歩戸數一ヲ宮城郡原町ニ編入ス

縣令第十號

内務大臣ノ裁可ヲ得テ本年四月一日ヨリ管下仙臺ニ市制ヲ施行ス

明治二十二年二月九日

宮城縣知事松平正直

縣令第十一號

内務大臣ノ裁可ヲ得テ本年四月一日ヨリ管下各町村ニ町村制ヲ施行ス

明治二十二年二月九日

宮城縣知事松平正直

柴田郡

町村名

舊村名

大河原町	大河原村	大谷村	福田村	小山田村
金ヶ瀬村	平村	堤村	新寺村	
沼邊村	沼邊村	沼田村	關場村	
船岡村	船岡村	上名生村	中名生村	下名生村
梶木村	入間野村	入間田村	船迫村	四日市場村
	葉坂村	成田村	海老穴村	小成田村
村田村	村田郷	足立村	小泉村	薄木村
富岡村	支倉村	菅生村		
川崎村	前川村	今宿村	小野村	川内村
				本砂金村

刈田郡

町村名

舊村名

白石町	白石本郷	郡山村	鷹巢村	内字里前
圓田村	圓田村	平澤村	搦澤村	矢付村
白川村	内親村	津田村	小奥村	小下倉村
				犬卒都婆村
				曲竹村

大鷹澤村 三澤村 大町村 鷹巢村ノ内字山内
 大平村 坂谷村 中目村 森谷村
 越河村 越河村 五賀村 平村
 七ヶ宿村 關村 渡瀬村 滑津村 湯原村
 福田村 深谷村 長袋村 八宮村 藏本村

伊具郡

町村名

舊村名

角田町 角田本郷 横倉村 豊室村
 西根村 笠島村 高倉村 毛萱村 稻置村
 大張村 川張村 大藏村
 館矢間村 館山村 小田村 松掛村 木沼村 山田村
 大内村 大内村 伊手村
 金山村 金山本郷
 櫻村 佐倉村 梶賀村
 北郷村 岡村 神次郎村 君萱村 花島村 江尻村
 東根村 小坂村 鳩原村 平貫村 坂津田村

枝野村 島田村 枝野村
 藤尾村 尾山村 藤田村

巨理郡

町村名

舊村名

坂元村 坂元本郷 眞庭村
 山下村 山寺村 淺生原村 鷺足村 小平村 大平村 八手庭村 高瀬村
 巨理町 小堤村
 逢隈村 中泉村 下郡村 榎袋村 十文字村 牛袋村 田澤村 小山村
 鹿島村 神宮寺村 上郡村 鷺屋村 萩村 高屋村
 吉田村 吉田村 長瀬村
 荒濱村 高須賀村

名取郡

町村名

舊村名

岩沼町 岩沼郷
 千貫村 南長谷村 北長谷村 長岡村 三色吉村 志賀村 小川村
 館腰村 飯野坂村 植松村 本郷村 堀内村

愛島村 笠島村 小豆島村 北目村 搦手村
 高館村 川上村 吉田村 熊野堂村
 生出村 茂庭村 坪沼村
 秋保村 境野村 湯元村 長袋村 馬塚村 新川村
 中田村 前田村 柳生村 袋原村 四郎丸村
 東多賀村 關上濱 高柳村 小塚原村 牛野村 大曲村
 下増田村 杉ヶ袋村
 増田村 上余田村 下余田村 田高村 手倉田村
 玉浦村 下野郷村 押分村 早股村 寺島村
 茂ヶ崎村 長町村 郡山村
 西多賀村 大野田村 富田村 富澤村 鈎取村 山田村
 六郷村 日邊村 沖野村 飯田村 今泉村 二木村 種次村 井戸濱 藤塚濱

宮城郡

町村名 舊村名
 大澤村 芋澤村 大倉村
 廣瀬村 郷六村 上愛子村 下愛子村 熊ヶ根村 作並村

泉嶽村 根白石村 福岡村 西田中村 朴澤村 小角村 實澤村
 七北田村 上谷刈村 古内村 野村 七北田村 市名坂村 松森村 北根村 荒卷村
 七郷村 南小泉村 蒲田村 霞目村 伊在村 六丁目村 長喜城村 荒井村 荒濱
 高砂村 福室村 岡田村 田子村 蒲生村 中野村
 多賀城村 浮島村 市川村 高橋村 高崎村 新田村 山王村 南宮村 八幡村
 岩切村 大代村 笠神村 下馬村 留ヶ谷村 東田中村
 利府村 岩切村 小鶴村 燕澤村 鶴ヶ谷村
 菅谷村 飯土井村 澤乙村 加瀬村 利府本郷 森郷 春日村
 神谷澤村 赤沼村
 松島村 松島村 高城本郷 磯崎村 櫻渡戸村 初原村 根廻村 幡谷村
 竹谷村 北小泉村 手樽村
 浦戸村 野々島 桂島 石濱 寒風澤濱
 鹽竈村 鹽竈村
 原町 南目村 苦竹村 小田原村

黒川郡

町村名 舊村名
 吉岡町 今村

吉田村 高田村
 宮床村 小野村
 富谷村 志戸田村 富谷村 三ノ關村 穀田村 西成
 一ノ關村 二ノ關村 田村 石積村 大龜村 明石村 今泉村 大童村
 鳥屋村 北目大崎村 下草村 大平村 幕柳村 太田村 山田村 小鶴澤村
 中村 羽生村 山崎村 不來内村 味明村 川内村 東成田村
 鶴崎村 土橋村
 相川村 檜和田村 舞野村 蒜袋村 松坂村 報恩寺村 三ノ内村
 大衡村 大瓜村 駒場村 奥田村 大森村
 粕川村 石原村

加美郡

町村名
 中新田町 中新田村
 廣原村 上狼塚村 菜切谷村 上多田川村 下多田川村 城生村 羽場村
 鳴瀬村 四日市塲村 下新田村 平柳村 雜式目村 下狼塚村
 賀美石村 米泉村 孫澤村 鳥屋ヶ崎村 鳥島村 谷地森村 木舟村 小泉村

小野田村 君ヶ袋村 沼ヶ袋村
 宮崎村 西小野田村 東小野田村 月崎村
 色麻村 柳澤村 宮崎村 北川内村
 四籠村 大村 一ノ關村 王城寺村 黒澤村 高城村 吉田村
 志津村 清水村 高根村 平澤村 小栗山村

志田郡

町村名
 古川町 大柿村 稻葉村 古川村 中里村
 荒雄村 小泉村 福浦村 宮袋村 江合村 福沼村 李坪村 馬寄村 簗口沼村
 敷玉村 下中目村 石森村 榎木村 師山村 宮内村 境野宮村 大幡村 青生村
 杉山村 千石村 金谷村 次橋村 長尾村 須摩屋村
 鹿島臺村 深谷村 船越村 平渡村 廣長村 木間塚村 大迫村
 三本木村 三本木村 南谷地村 蒜袋村 高柳村 桑折村 秋田村 上伊塲野村
 伊賀村 蟻ヶ袋村 坂本村 齋田村 音無村
 新沼村 中澤村 引田村 堤根村 矢ノ目村
 高倉村 澁井村 荒田目村 保柳村 上中目村 新堀村 耳取村 柏崎村
 志田村

齋下村 塚目村 米倉村 西荒井村 米袋村 飯川村

玉造郡

町村名

舊村名

大崎村 新田村 南澤村 清水村 下野目村
岩出山町 岩出山村
眞山村 上山里村 下山里村
一栗村 池月村 下一栗村 上野目村
温泉村 鳴子村 大口村 名生定村

遠田郡

町村名

舊村名

涌谷町 馬場谷地村
元涌谷村 涌谷村 小塚村 上郡村 下郡村
籠嶽村 太田村 吉住村 籠嶽村 猪岡短臺村 小里村 成澤村
大貫村 大貫村 蕪栗村
沼部村 沼部村 小堀村 大澤村 櫻田高野村 北高城村 北小牛田村
田尻村 大嶺村 八幡村 小松村 諏訪峠村 沼木村 中目村 田尻村

中埠村 通木村 北牧目村
富永村 平針村 南高城村 中高城村 中埠村 成田村 萩埠村 南牧目村
北浦村 狐塚村 馬放村 長岡針村 休塚村 淵尻村 富長村 上埠村
小牛田村 北浦村 桑針村 關根村 鶴ヶ埠村 深沼村
南郷村 南小牛田村 牛飼村
福ヶ袋村 練牛村 大柳村 二郷村 木間塚村 和多田沼村

栗原郡

町村名

舊村名

長岡村 荒谷村 小野村
宮澤村 豐岳村 嵯峨村
清瀧村 清瀧村 小山田村 山田村
藤里村 大里村 藤澤村
玉澤村 太澤村 玉萩村
姫松村 王澤村 片子澤村 寶來村
一迫村 柳目村 眞坂村
尾松村 稻扇敷村 八幡村 栗原村

栗駒村 沼倉村 松倉村
 岩ヶ崎町 岩ヶ崎村
 鳥矢崎村 鳥谷村 駒崎村
 萩野村 有馬村 末野村 藤渡戸村 賢見村
 澤邊村 姊齒村 澤邊村 大堤村ノ内小堤
 有賀村 有賀村 武鎗村
 若柳町 若柳村
 志波姫村 姫郷村 白崎村 梅崎村
 津久毛村 津久毛村 大堤村ノ内大原木

登米郡

町村名 舊村名
 登米町 登米村 日根牛村
 北方村 北方村ノ内北浦 日向 三方島
 佐沼町 北方村ノ内本郷
 豊里村 赤生津村 鶴波村
 石森村 石森村 加賀野村
 寶江村 田沼村 森村

未山村 西野村 中津山村
 上沼村 上沼村 櫻塚村
 米川村 狼河原村 鱒淵村
 綿織村 西郡村 薩職立村

桃生郡

町村名 舊村名
 野蒜村 大塚濱 浅井村 野蒜村
 小野村 上下堤村 川下村 西福田村 新村 高松村 根古村 小野本郷
 鷹來村 濱市村 牛網村
 矢本村 大曲村 小松村
 廣淵村 盤入村 大窪村 北村 赤井村 須江村
 前谷地村 前谷地村 和淵村
 中津山村 中津山村 寺崎村
 桃生村 牛田村 永井村 倉坪村 脇谷村 檜崎村 太田村
 大谷地村 飯野村 小船越村
 飯野川村 相野谷村 成田村 中島村 中野村 皿貝村 馬鞍村

橋浦村	橋浦村 長尾村 女川村
二股村	北境村 東福田村 大森村 三輪田村
大川村	釜谷濱 福地村 針岡村 長面濱 尾崎濱
十五濱村	名振濱 船越濱 大須濱 熊澤濱 桑濱 立濱 大濱 小島濱
宮戸村	明神濱 雄勝濱 水濱 分濱

鹿郡

町村名

舊村名

石卷町	石卷村 門脇村 湊村
稻井村	南境村 大瓜村 高木村 水沼村 眞野村 沼津村 流留村
渡波町	澤田村 湊村ノ内井内 磯田
女川村	佐須濱 根岸村 祝田濱
萩濱村	浦宿濱 針濱 女川濱 鷺ノ神濱 小乗濱 高白濱 横浦 大石原濱 野々濱 飯子濱 塚濱 江ノ島 出島 竹浦 尾浦 桐ヶ崎 石濱 宮ヶ崎 御前濱 指ヶ濱 小竹濱 折ノ濱 桃ノ浦 月浦 侍濱 萩ノ濱 小積濱 竹濱

大原村	牧濱 狐崎濱 福貴浦 田代濱
結川村	小網倉濱 清水田濱 大原濱 給分濱 新山濱 泊濱 谷川濱 鮫ノ浦 寄磯濱 網地濱 長渡濱 結川濱 十八成濱

本吉郡

町村名

舊村名

氣仙沼町	氣仙沼村
唐桑村	唐桑村 小原木村
新月村	新城村 月立村
十三濱村	十三濱

告 文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ語ク白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無ク願ミルニ世局ノ進退ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼賛ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇祖

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ヲサラムコトヲ誓フ庶幾シハ

靈此レヲ鑒ミタマヘ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ハ臣民ノ慶福トナリテ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス
惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力補翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト並ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠其ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ言ヲ獎勵シ相與ニ和衷共同ニ益々我カ帝國ノ幸榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ万世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒレ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿徳貞能ヲ發達セシメントチ願ヒ又其ノ翼賛ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十四日ノ詔命ヲ頒發シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム
國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將承此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ憲法ニ依リテ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ皇朕ハ我カ臣民ノ權利及財產ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ヲシテ有効ナラシムル有テ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス
帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ
將承此ノ憲法ノ條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜チ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル條件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫

及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ
朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘシ朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽
明治二十二年二月十一日

- 內閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西郷從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 遞信大臣 子爵榎本武揚

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲メ緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會
此ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲メ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メ
必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ
法律ニ特別ノ掲ケタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ請シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

第十五條 戒嚴ノ要件及功カハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十七條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十八條 攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第十九條 第二章 臣民權利義務

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁密閉處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルコトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜
索セラレコトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其所有權ヲ侵サルコトナシ

第二十八條 公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十九條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨グス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ
有ス

第三十條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十一條 日本臣民ハ輻輳ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨グルコ
トナシ

第三十三條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸セザルモノニ限り軍人ニ進行
ス

第三章 帝國議會

第三十四條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十五條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公撰セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十七條 何人モ同時ニ兩院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十八條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得
 第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス
 第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其
 ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス
 第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス
 第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スル
 コトアルヘシ
 第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ
 臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル
 第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ
 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラレヘシ
 第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ撰舉セシメ解散ノ日ヨリ
 五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ
 第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲ス
 コトヲ得ス
 第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
 第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコト
 ヲ得
 第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得
 第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得
 第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲グルモノハ外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ム
 ルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナ
 シ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法
 律ニ依リ處分セラルヘシ
 第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内乱外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナシ
 シテ逮捕セラルコトナシ
 第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得
 第四章 國務大臣及樞密顧問
 第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス
 凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス
 第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス
 第五章 司法
 第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ
 裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
 裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルコトナシ
 懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律
 ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得
 第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム
 第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ
 以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス
 第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 但シ報償ニ屬スル行政上ノ手數料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス
 國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協
 贊ヲ經ヘシ
 第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス
 第六十四條 國家ノ歲出入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ
 豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ
 要ス
 第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ
 第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來增額ヲ要スル場合ヲ除
 シ外帝國議會ノ協贊ヲ要セス
 第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ
 屬スル歲出ハ政府ノ同意ナシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス
 第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫算ノ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコ
 トヲ得
 第六十九條 避ケヘカテサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツ
 ル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ
 第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議
 會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政ニ必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ承諾ヲ求ムルヲ要ス
 第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫
 算ヲ施行スヘシ
 第七十二條 國家ノ歲出入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之

ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
 會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議
 ニ付スヘシ
 此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ議員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得
 ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス
 第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス
 皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス
 第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス
 第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヅタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法
 令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス
 歲出ト政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

○法律

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各
 本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 軍務大臣 伯爵西鄉從道

農商務大臣 伯爵井上馨
 司法大臣 伯爵山田顯義
 陸軍大臣 伯爵松方正義
 海軍大臣 伯爵大山巖
 文部大臣 伯爵森有禮
 逓信大臣 子爵榎本武揚

法律第二號
 議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會
 第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ
 第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ
 第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ撰舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ
 議長副議長ノ勅任セラル、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ
 第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互撰スヘシ
 第五條 兩議員成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ
 第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ
 第二章 議長書記官及經費
 第七條 各議院ノ議長副議長ハ各々一員トス
 第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル
 第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ關位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス
 第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス
 第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラズ
 第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス
 第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ撰舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ
 第十五條 各議院ノ議長副議長ハ在任期限ニ達スルモ發任者ノ勅任セラル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ
 第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス
 第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス
 第十八條 書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス
 第十九條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス
 第三章 議長副議長及議員歳費
 第二十條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス
 議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス
 官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス
 第二十五條 場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク
 第四章 委員
 第二十六條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

本院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員トナスモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ勸科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議院中ヨリ擧シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ擧シテ付託ヲ受ケルモノトス

第二十一條 本院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ擧ス

常任委員長ヲ特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互擧ス

第二十二條 本院委員會ハ議院三分ノ一以上ノ常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非ザレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十八人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省畧スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニテ之ヲ提出ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラルハモノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ニ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十八人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十八人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用フスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取りタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ賛成アルニ非レハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見を述べタルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預ラズ

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスル時ハ三十人以上ノ賛成者アルヲ要ス

第四十九條 質問主悉書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辨ヲ爲シ又ハ答辨スヘキ期日ヲ定メ若答辨ヲ爲サルトキハ其ノ理由ヲ明示スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辨ヲ得又ハ答辨ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若シ之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各々十人以下同數ノ委員ヲ撰舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サズ
 第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用ヒ可否同數ナルトキハ議長ノ決
 スル所ニ依ル
 第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩院協議委員ニ於テ各々一員ヲ互撰シ每會更代シテ席ニ當ラ
 シムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム
 第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩院交涉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ
 第十三章 請願
 第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ
 第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査シシム
 請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ
 第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ
 請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事
 件ヲ會議ニ付スヘシ
 第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書
 ヲ政府ニ送付シ憲法ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得
 第六十六條 法律ニ依リ法入ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之
 ヲ受クルコトヲ得ス
 第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス
 第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモ
 ノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス
 第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用非政府外ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用非ルモ
 ノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス
 第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セズ
 第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係
 第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス
 第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及ヒ議員ヲ派出スルコトヲ得ス
 第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕
 密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ
 第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ
 得ス
 第十五章 退職及議員資格ノ異議
 第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル
 職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス
 第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ撰舉法ニ記載シタル被撰ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス
 第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之
 ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ
 第七十九條 裁判所ニ於テ當撰訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審
 查スルコトヲ得ス
 第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラルハニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失
 ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル議院ニ對シテハ辨明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコト
 ヲ得ス
 第十六章 請假辭職及補闕
 第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超
 ヲルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス
 第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ議院又ハ委員會ニ闕席スルコ
 トヲ得ス

ト得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

第九十條 傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ケルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員會ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先之ヲ委員會ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス

二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ贊成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル日期日後一週間内ニ召集ニ應ジサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ關席スルニ由リ若ハ請假ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ時ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附録ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣 伯爵黒田清隆

十九

樞密院議長
 外務大臣 伯爵伊藤博文
 海軍大臣 伯爵西園從道
 農商務大臣 伯爵井上馨
 司法大臣 伯爵山田顯義
 陸軍大臣 伯爵松方正義
 大藏大臣 伯爵大山大藏
 文部大臣 伯爵森有禮
 遞信大臣 伯爵本武揚

法律第三號
衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム
 第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス
 第三條 一選舉區ノ長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス
 第四條 一市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長ヲラシムヘシ
 第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ
 第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス
 第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者
 第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被選人ノ資格
第九條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル
第九條 宮内官裁判官會計檢査官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院議ノ議員ニ選舉セラレ當撰子承諾シタルトキハ其前職ヲ辭スヘキモノトス

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

- 一 瘋癲白痴ノ者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者
- 三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者
- 四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受テ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 撰舉ニ關ル犯罪ニ由リ撰舉權及被撰權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ撰舉人及被撰人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス

第五章 撰舉人名簿

第十八條 撰舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ撰舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

撰舉人名簿ハ撰舉人ノ姓名官位職業身分住居生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ
第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ撰舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ撰舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ撰舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ撰舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ
第五 撰舉長其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ハ區長ノ證明ヲ得テ撰舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 撰舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル撰舉人名簿ヲ合シ一撰舉區トシテ一冊トシ撰舉管ニ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 撰舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一撰舉區撰舉人名簿ノ寫ヲ其ノ撰舉管ニ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ撰舉資格アル者撰舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證據ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ撰舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 撰舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其理由及證據ヲ審查シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若シ其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 撰舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審查シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被管人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ

若シ誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被管人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被管人ニ於テ撰舉長ノ判定ニ服セサルトキハ撰舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 撰舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置シヘシ

但シ裁判官渡書ニ依リ改正スヘキモノハ撰舉長ニ於テ其ノ官渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第六章 撰舉ノ期日及投票所

第三十條 撰舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時撰舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ撰舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設ケルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル撰舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

第七章 投票

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル撰舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開

キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 撰舉人ハ撰舉ノ當日日本人自ラ投票所ニ至リ撰舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各々一定ノ式ヲ用キ撰舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各

撰舉人ニ交付スヘシ
撰舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被撰人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 撰舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ撰舉スヘキ撰舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ撰舉人名簿ニ記載セラルヘキ裁判官渡書ヲ所持シ撰舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ函ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ撰

舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一撰舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ撰舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ撰舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 撰舉會

第四十六條 撰舉會ハ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 撰舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ撰舉委員三名以上七

名以下ヲ定ムヘシ
第四十八條 撰舉長ハ投票函送達ノ翌日撰舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人

ノ總數ト計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ撰舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ撰舉長ハ撰舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各撰舉區ノ撰舉人ハ其ノ撰舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス
一 撰舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判官渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用ササルモノ

三 撰舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被撰人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ撰舉人又ハ被撰人ノ姓名ヲ認知スヘカヲサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用サレバ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被撰人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用サタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ撰舉委員ノ意見ヲ聞キ撰舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ撰舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ撰舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄スヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ヨリ多キ被撰人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ
連名投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄スヘシ

第五十六條 撰舉ニ關リ訴訟又ハ管訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 遷舉長ハ遷舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ多寡ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

第五十九條 當選人定マリタルトキハ撰舉長ハ直ニ其姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタル時ハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數撰舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ撰舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ヲ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ撰舉ノ期日ヲ定メ其ノ撰舉長ニ命シ再ヒ撰舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條 各撰舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ

並ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補選

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得
第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補選選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命ゼラレタルトキハ
府縣知事ハ其命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補選議員
ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補選議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分
ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サズ

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サズ

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧嘩ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキ
ハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ
投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票ス
ルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツル
コトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第
六十九條ヨリ第七十二條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムル
トキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴
院ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院
書記局ニ預置スヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判官渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサル
トキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言
渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下シルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告
スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ
對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ會ハシムヘシ當選
訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判官渡書ノ謄本ヲ内務大臣ニ送
付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 時撰訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納稅額年滿住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラ

レタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ

目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコト

ヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受テタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコト

ヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル

者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ

目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以

下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ

爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加

ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪

スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ囂聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ囂聚ニ應シ勢ヲ造ラタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者武器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ監督者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票 所若ハ選舉會場ヲ騷

擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上

二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者武器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ囂聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

其ノ情ヲ知テ囂聚ニ應シ勢ヲ造ラタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者武器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サレタル者

ハ刑法第二百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 武器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下

ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其

ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル

者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三

年以上七年以下ノ輕禁錮及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓

以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷

ス

第一百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第一百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及撰舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル撰舉區内ニ於ケル撰舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遲クトモ撰舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日撰舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ

第百八條 立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

第百九條 此ノ場合ニ於ケル撰舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第百十條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル撰舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第百十一條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第百十二條 撰舉人名簿調製ノ初年ニ限リ所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第百十三條 北海道沖繩縣及小笠原嶼ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ進行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス

衆議院議員選舉法附錄

東京府 議員總數十二人 第一區(麹町區麻布區赤坂區)一人 第二區(芝區)一人 第三區(京橋區)一人 第四區(日本橋區)一人 第五區(本所區深川區)一人 第六區(淺草區)一人 第七區(神田區)一人 第八區(下谷區本郷區)一人 第九區(小石川區牛込區四谷區)一人 第十區(東多摩區南豐島區北豐島區)一人 第十一區(南足立區南葛飾區)一人 第十二區(荏原區伊豆七島)一人

京都府 議員總數七人 第一區(上京區)一人 第二區(下京區)一人 第三區(愛宕區葛野區)

郡乙訓郡紀伊郡)一人 第四區(宇治郡久世郡相樂郡綴喜郡)一人 第五區(南桑田郡北桑田郡船井郡天田郡海部郡)二人 第六區(加佐郡與謝郡中郡竹野郡熊野郡)一人

大坂府 議員總數十人 第一區(西區)一人 第二區(東區北區)一人 第三區(南區)一人 第四區(西成郡東成郡住吉郡)二人 第五區(島上郡島下郡豐島郡能勢郡)一人 第六區(茨田郡交野郡讀賣郡河内郡若江郡高安郡)一人 第七區(石川郡八上郡古市郡安宿郡都錦郡)一人 第八區(堺區大島郡泉郡)一人 第九區(南郡丹南郡志紀郡丹北郡大縣郡澁川郡)二人 第十區(堺區大島郡泉郡)一人 第九區(南郡日根郡)一人

神奈川縣 議員總數七人 第一區(橫濱區)一人 第二區(久良岐郡橘樹郡都筑郡)一人 第三區(南多摩郡西多摩郡北多摩郡)二人 第四區(三浦郡鎌倉郡)一人 第五區(高座郡愛甲郡津久井郡)一人 第六區(大任郡洵綾郡足柄上郡足柄下郡)一人

兵庫縣 議員總數十二人 第一區(神戶區)一人 第二區(武庫郡芝原郡川邊郡有馬郡)一人 第三區(多紀郡水上郡)一人 第四區(八郡郡明石郡美彌郡)一人 第五區(加古郡印南郡)一人 第六區(加東郡多可郡加西郡)一人 第七區(飾磨郡飾西郡神戶郡西郡)一人 第八區(揖保郡揖西郡赤穂郡佐用郡宍粟郡)二人 第九區(城崎郡美合郡氣多郡出石郡七美郡二方郡養父郡朝來郡)二人 第十區(津名郡三原郡)一人

長崎縣 議員總數七人 第一區(長崎區西彼杵郡)二人 第二區(東彼杵郡北高來郡)一人 第三區(南高來郡)一人 第四區(北松浦郡壹岐郡石田郡)一人 第五區(南松浦郡)一人 第六區(上縣郡下縣郡)一人

新潟縣 議員總數十三人 第一區(新潟區西蒲原郡)二人 第二區(北蒲原郡東蒲原郡)二人 第三區(中蒲原郡)一人 第四區(南蒲原郡)一人 第五區(古志郡三島郡)二人 第六區(刈羽郡)一人 第七區(北魚沼郡南魚沼郡中魚沼郡東頸城郡)三人 第八區(中頸城郡西頸城郡)二人 第九區(雜太郡加茂郡羽茂郡)一人

埼玉縣 議員總數八人 第一區(北足立郡新座郡)一人 第二區(入間郡高麗郡橫見郡比企

郡(二人) 第三區(南埼玉郡北葛飾郡中葛飾郡)三人 第四區(北埼玉郡大里郡幡羅郡榛澤郡男衾郡)二人 第五區(兒玉郡寶美郡那珂郡秩父郡)一人

群馬縣 議員總數五人 第一區(東群馬郡南勢多郡利根郡北勢多郡)一人 第二區(新田郡山田郡邑樂郡)一人 第三區(佐位郡那波郡綠野郡多胡郡南甘樂郡)一人 第四區(西群馬郡片岡郡吾妻郡)一人 第五區(北甘樂郡碓氷郡)一人

千葉縣 議員總數九人 第一區(千葉郡市原郡)一人 第二區(東葛飾郡印旛郡下埴生郡南相馬郡)二人 第三區(香取郡)一人 第四區(海上郡匝埴郡)一人 第五區(山邊郡武射郡)一人 第六區(夷隅郡上埴生郡長柄郡)一人 第七區(望陀郡周准郡天羽郡)一人 第八區(安房郡平郡朝夷郡長狹郡)一人

茨城縣 議員總數八人 第一區(東茨城郡鹿島郡行方郡)二人 第二區(多賀郡久慈郡那珂郡)二人 第三區(西茨城郡真壁郡)一人 第四區(豐田郡結城郡岡田郡西葛飾郡猿島郡)一人 第五區(筑波郡新治郡)一人 第六區(信太郡河內郡北相馬郡)一人

栃木縣 議員總數五人 第一區(河內郡芳賀郡)一人 第二區(上都賀郡下都賀郡寒川郡)二人 第三區(安蘇郡足利郡梁田郡)一人 第四區(鹽谷郡須賀郡)一人

奈良縣 議員總數四人 第一區(添上郡添下郡山邊郡廣瀨郡平群郡)一人 第二區(式上郡式下郡宇陀郡十市郡高市郡葛上郡葛下郡忍海郡)二人 第三區(宇智郡吉野郡)一人

三重縣 議員總數七人 第一區(安濃郡志保郡)一人 第二區(三重郡鈴鹿郡奄藝郡河那郡)一人 第三區(桑名郡員辨郡朝明郡)一人 第四區(飯高郡飯野郡多氣郡)一人 第五區(度會郡答志郡英虞郡北牟婁郡南牟婁郡)二人 第六區(阿拜郡山田郡名張郡伊賀郡)一人

愛知縣 議員總數十一人 第一區(名古屋區)一人 第二區(愛知郡)一人 第三區(東春日井郡西春日井郡)一人 第四區(丹羽郡東海郡)一人 第五區(中島郡)一人 第六區(海東郡海西郡)一人 第七區(知多郡)一人 第八區(碧海郡幡豆郡)一人 第九區(額田郡西加茂郡東加茂郡)一人 第十區(北設樂郡南設樂郡寶飯郡)一人 第十一區(海美郡八名郡)一人

靜岡縣 議員總數八人 第一區(安倍郡有渡郡)一人 第二區(富士郡鹿原郡)一人 第三區(志太郡益津郡)一人 第四區(榛原郡佐野郡城東郡)一人 第五區(周智郡豐田郡山名郡磐田郡)一人 第六區(長上郡敷地郡濱名郡引佐郡鹿玉郡)一人 第七區(那賀郡賀茂郡君澤郡田方郡駿東郡)二人

山梨縣 議員總數三人 第一區(西山梨郡北巨摩郡中巨摩郡)一人 第二區(東山梨郡南都留郡北都留郡)二人 第三區(東八代郡西八代郡南巨摩郡)一人

滋賀縣 議員總數五人 第一區(滋賀郡高島郡)二人 第二區(甲賀郡野洲郡栗太郡)一人 第三區(犬上郡愛知郡神崎郡蒲生郡)二人 第四區(西淺井郡東淺井郡伊香郡坂田郡)一人

岐阜縣 議員總數七人 第一區(厚見郡方縣郡各務郡)一人 第二區(不破郡安八郡)一人 第三區(海西郡下石津郡多摩郡上石津郡羽栗郡中島郡)一人 第四區(大野郡池田郡本巢郡)一人 第五區(武儀郡郡上郡)一人 第六區(加茂郡可兒郡土岐郡惠那郡)一人 第七區(大野郡益田郡吉城郡)一人

長野縣 議員總數八人 第一區(上水內郡更級郡)一人 第二區(下水內郡上高井郡下高井郡)一人 第三區(小縣郡埴科郡)一人 第四區(西筑摩郡東筑摩郡南安曇郡北安曇郡)二人 第五區(南佐久郡北佐久郡)一人 第六區(上伊那郡諏訪郡)一人 第七區(下伊那郡)一人

宮城縣 議員總數五人 第一區(仙臺區名取郡宮城郡)一人 第二區(柴田郡刈田郡伊具郡亘理郡)一人 第三區(黒川郡加美郡志田郡玉造郡遠田郡)一人 第四區(栗原郡登米郡)一人 第五區(桃生郡牡鹿郡本吉郡)一人

福島縣 議員總數七人 第一區(信夫郡伊達郡)二人 第二區(安達郡安積郡)一人 第三區(田村郡巖瀨郡東白川郡西白河郡石川郡)二人 第四區(南會津郡北會津郡大沼郡耶麻郡河沼郡)二人 第五區(南多郡磐前郡磐城郡檜葉郡標葉郡行方郡宇都多郡)一人

巖手縣 議員總數五人 第一區(南巖手郡北巖手郡紫波郡二戶郡)一人 第二區(東閉伊郡西閉伊郡北閉伊郡南九戶郡北九戶郡)一人 第三區(稗貫郡東和賀郡西和賀郡西閉伊郡南

閉伊郡一人 第四區(江刺郡膽澤郡氣仙郡)一人 第五區(西磐井郡東磐井郡)一人
 青森縣 議員總數四人 第一區(東津輕郡上北郡下北郡三戶郡)二人 第二區(北津輕郡南
 津輕郡)一人 第三區(中津輕郡西津輕郡)一人
 山形縣 議員總數六人 第一區(南村山郡東村山郡西村山郡)二人 第二區(東置賜郡南置
 賜郡西置賜郡)一人 第三區(飽海郡西田川郡東田川郡)二人 第四區(最上郡北村山郡)
 一人
 秋田縣 議員總數五人 第一區(南秋田郡)一人 第二區(山本郡北秋田郡鹿角郡)一人 第
 三區(河邊郡由利郡)一人 第四區(仙北郡平鹿郡雄勝郡)二人
 福井縣 議員總數四人 第一區(足羽郡大野郡)一人 第二區(吉田郡坂井郡)一人 第三區
 南條郡今立郡丹生郡)一人 第四區(三方郡遠敷郡大飯郡敦賀郡)一人
 石川縣 議員總數六人
 第一區(金澤區石川郡)二人 第二區(能美郡江沼郡)一人 第三區(河北郡羽咋郡鹿島郡)
 二人 第四區(鳳至郡珠洲郡)一人
 富山縣 議員總數五人 第一區(上新川郡婦負郡)二人 第二區(下新川郡)一人 第三區(射
 水郡)一人 第四區(蠮波郡)一人
 鳥取縣 議員總數三人 第一區(邑美郡法美郡慶井郡八上郡八東郡智頭郡)一人 第二區(高
 草郡多郡河村郡久米郡八橋郡)一人 第三區(汗入郡會見郡日野郡)一人
 島根縣 議員總數六人 第一區(島根郡秋鹿郡津宇郡)一人 第二區(能義郡仁多郡大原郡飯
 石郡)一人 第三區(出雲郡橋本郡神門郡)一人 第四區(瀨戶郡安濃郡邑智郡)一人 第
 五區(那賀郡美濃郡鹿足郡)一人 第六區(周吉郡穩地郡海士郡知夫郡)一人
 岡山縣 議員總數八人 第一區(岡山區御對郡上道郡邑久郡兒島郡)二人 第二區(津高郡
 赤阪郡磐梨郡和氣郡)一人 第三區(都宇郡窪屋郡賀陽郡下道郡)一人 第四區(淺口郡小
 田郡後月郡)一人 第五區(上房郡川上郡哲多郡河賀郡)一人 第六區(真島郡大庭郡西

條郡西北條郡東條郡東北條郡)一人 第七區(勝北郡勝南郡吉野郡英田郡久米北條郡久
 米南條郡)一人

廣島縣 議員總數十人 第一區(廣島區安藝郡)二人 第二區(佐伯郡)一人 第三區(沼田
 郡高宮郡山縣郡)一人 第四區(高田郡三次郡三谿郡)一人 第五區(加茂郡)一人 第六區
 (豐田郡)一人 第七區(御調郡世羅郡)一人 第八區(深津郡沼隈郡安藝郡)一人 第九區
 (鹽田郡品治郡神石郡甲奴郡奴可郡三上郡惠蘇郡)一人
 山口縣 議員總數七人 第一區(吉敷郡美濃郡厚狹郡佐波郡)二人 第二區(阿武郡見島郡
 大津郡)一人 第三區(赤間關區豐浦郡)一人 第四區(都濃郡熊毛郡大島郡)二人 第五區
 (玖珂郡)一人
 和歌山縣 議員總數五人 第一區(和歌山區名草郡海部郡有田郡)二人 第二區(伊都郡那
 賀郡)一人 第三區(日高郡西牟婁郡東牟婁郡)二人
 德島縣 議員總數五人 第一區(名東郡勝浦郡)一人 第二區(那賀郡海部郡)一人 第三區
 (名西郡阿波郡麻植郡)一人 第四區(板野郡)一人 第五區(美馬郡三好郡)一人
 香川縣 議員總數五人 第一區(香川郡山田郡小豆郡)一人 第二區(大內郡塞川郡三木郡)
 一人 第三區(鵜足郡阿野郡)一人 第四區(多度郡那珂郡)一人 第五區(豐田郡三野郡)
 一人
 愛媛縣 議員總數七人 第一區(温泉郡和氣郡風早郡野間郡久米郡伊豫郡下浮穴郡)二人
 第二區(越智郡桑村郡周布郡)一人 第三區(喜多郡上浮穴郡)一人 第四區(新居郡宇摩
 郡)一人 第五區(西宇和郡東宇和郡)一人 第六區(南宇和郡北宇和郡)一人
 高知縣 議員總數四人 第一區(土佐郡長岡郡)一人 第二區(幡多郡高岡郡吾川郡)二人
 第三區(香美郡安藝郡)一人
 福岡縣 議員總數九人 第一區(福岡區怡土郡志摩郡早良郡)一人 第二區(糟屋郡宗像郡
 那珂郡御笠郡席田郡上座郡下座郡夜須郡)二人 第三區(遠賀郡鞍手郡嘉麻郡穂波郡)一人

第四區(御井郡御原郡山本郡生葉郡竹野郡)一人 第五區(三瀨郡上妻郡下妻郡)一人 第六區(山門郡三池郡)一人 第七區(企救郡田川郡)一人 第八區(京都郡仲津郡築城郡上毛郡)一人

大分縣 議員總數六人 第一區(大分郡)一人 第二區(北海部郡南海部郡)一人 第三區(大野郡直入郡)一人 第四區(速見郡玖珠郡日田郡)一人 第五區(西國東郡東國東郡)一人 第六區(下毛郡宇佐郡)一人

佐賀縣 議員總數四人 第一區(佐賀郡神崎郡小城郡基肆郡養父郡三根郡)二人 第二區(東松浦郡西松浦郡)一人 第三區(杵島郡藤津郡)一人

熊本縣 議員總數八人 第一區(熊本區飽田郡託麻郡宇土郡)二人 第二區(玉名郡)一人 第三區(山鹿郡山本郡菊池郡合志郡阿蘇郡)二人 第四區(上益城郡下益城郡)一人 第五區(八代郡葦北郡球磨郡)一人 第六區(天草郡)一人

宮崎縣 議員總數三人 第一區(宮崎郡北郡珂郡南郡那珂郡兒湯郡)一人 第二區(北諸縣郡西諸縣郡)一人 第三區(東臼杵郡西臼杵郡)一人

鹿兒島縣 議員總數七人 第一區(鹿兒島郡嶺山郡北大隅郡熊毛郡)四人 第二區(高城郡出水郡南伊佐郡薩摩郡甑島郡)一人 第三區(日置郡阿蘇郡)一人 第四區(高城郡)一人 第五區(南薩縣郡南大隅郡肝屬郡東嶮郡)一人 第六區(大島郡)一人

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽
明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣 伯爵黑田清隆
樞密院議長 伯爵伊藤博文

外務大臣 伯爵大隈重信
海軍大臣 伯爵西鄉從道
農商務大臣 伯爵井上馨
司法大臣 伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
陸軍大臣 伯爵大山巖
文部大臣 伯爵森有禮
遞信大臣 伯爵榎本武揚

法律第四號
會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ每年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第三條 租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入ス

第四條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第五條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第七條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

第八條 總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第九條 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一 豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度経過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租税及其他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租税ヲ徵收シ又ハ其他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ豫金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中需用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 塲所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテテ限ル

第五章 決算

第十六條 會計檢査院ノ檢査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式

ヲ用井左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令濟歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添付スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計簿書

第三 特別會計簿書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年內ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歲入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度內ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クハカニサル事故ノ爲ニ事業ヲ遲延シ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及兵ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歲入ニ組ムルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算繰越替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各々之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ買入貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ買入貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ専有スル物品ヲ買入ル又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ買入貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急遽ノ際ノ工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニアラサレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超ニサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超ニサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試驗ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 慈善ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ

責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ
 第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカヲサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルコトヲ得ス
 第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第二十九條 什拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼スルコトヲ得ス
 第十章 雜則
 第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得
 特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得
 第十一章 附則
 第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス
 決算ノ條項ハ帝國議會ノ議會ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス
 第三十三條 本法ノ條項ト抵触スル法令ハ各々其條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○勅令
 朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ
 御名 御璽
 明治二十二年二月十一日
 內閣總理大臣 伯爵黒田清隆

樞密院 議長 伯爵伊藤博文
 外務大臣 伯爵大隈重信
 海軍大臣 伯爵西郷從道
 農商務大臣 伯爵井上馨
 司法大臣 伯爵山田顯義
 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
 陸軍大臣 伯爵大山巖
 文部大臣 伯爵森有禮
 遞信大臣 伯爵榎本武揚

勅令第十一號

貴族院令

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス
 一 皇族
 二 公侯爵
 三 伯子男爵各々其ノ同爵中ヨリ撰舉セラレタル者
 四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者
 五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互撰シテ勅任セラレタル者
 第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス
 第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ
 第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各々其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ撰舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各々總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互撰シ其撰ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ撰舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ其議員ノ資格及撰舉ニ關ル爭議ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議決シ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラレハシ

被撰議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

朕憲法ヲ發布スルニ當リ此盛典ヲ表シ惠澤ヲ施サソカ爲ニ特ニ命シテ左ノ條項ニ依リ大赦ヲ行

御名 勅 宣 明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣	伯爵黑田清隆
樞密院議長	伯爵伊藤博文
外務大臣	伯爵大隈重信
海軍大臣	伯爵西鄉從道
農商務大臣	伯爵井上馨
司法大臣	伯爵山田顯義
大藏大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山巖
文部大臣	伯爵森有禮
遞信大臣	伯爵榎本武揚

勅令第十二號

第一條 本令發布以前ニ於テ左ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一 刑法第百十七條第百十九條ノ罪

二 刑法第百二十一條第百二十三條第百二十五條第百二十六條第百二十七條ノ罪

三 刑法第百二十九條第百三十條第百三十一條第百三十二條第百三十三條第百三十四條ノ罪

四 刑法第百三十六條第百三十七條第百三十八條ノ罪

五 刑法第百四十一條ノ罪

六 陸軍刑法第五十條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條ノ罪

七 陸軍刑法第六十六條第六十七條ノ罪

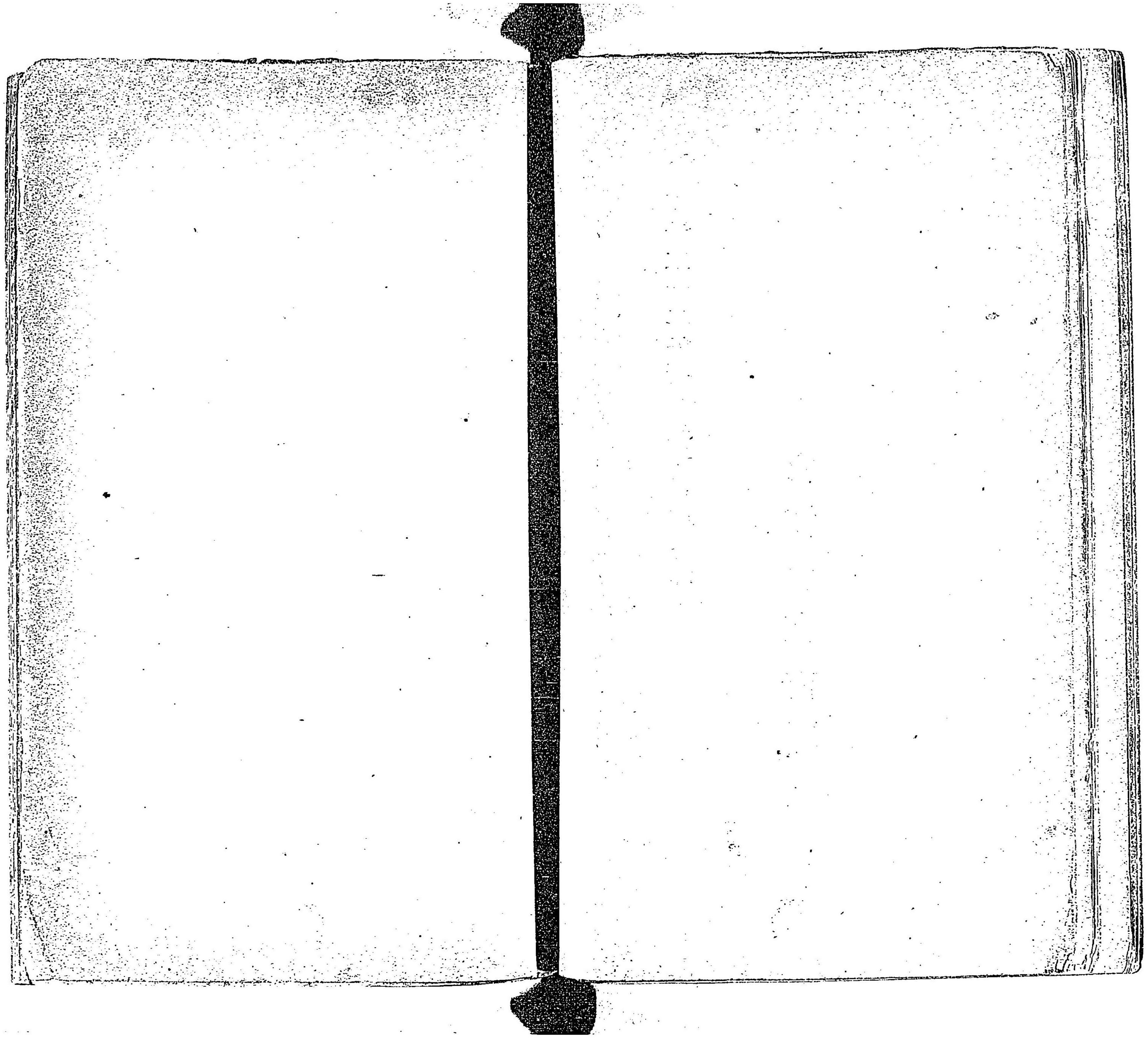
八 陸軍刑法第六十九條第七十條第七十一條ノ罪

九 陸軍刑法第九十三條第九十四條ノ罪
 十 陸軍刑法第九條第十條ノ罪
 十一 海軍刑法第五十六條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條ノ罪
 十二 海軍刑法第八十六條第八十七條ノ罪
 十三 海軍刑法第一百條第一百一條ノ罪
 十四 海軍刑法第一百條第一百十一條ノ罪
 十五 海軍刑法第一百二十六條ノ罪
 十六 保安條例ノ罪
 十七 集會條例ノ罪
 十八 治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ暴發物取締罰則ヲ犯ス罪
 十九 新聞紙條例第二十一條第二十二條ニ違ヒ第三十條第三十一條ニ該ル罪及ヒ第三十二條ヲ犯ス罪第三十條ニ該ル者ノ内風俗ヲ壞亂スルカ爲メ發賣頒布ヲ禁セラレタル新聞紙ヲ發賣頒布シタル者ハ赦免セス
 政治ニ關スル意思ヲ以テ同條例第一條第三條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪及ヒ第十六條第十七條第十八條ニ違ヒ第二十九條ニ該ル罪
 出版條例第十六條第十七條第十八條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪及ヒ第二十四條ヲ犯ス罪但第二十七條ニ該ル者ノ内風俗ヲ壞亂スルカ爲メ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者ハ赦免セス
 政治ニ關スル意思ヲ以テ同條例第三條ニ違ヒ第二十一條ニ該ル罪第六條第七條ニ違ヒ第二十二條第二十三條ニ該ル罪及ヒ第十五條第十九條第二十條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪

第二條 舊法ニ依リ處斷セラレタル罪ト雖モ其性質前條ニ記載シタル罪ノ同一ナル者ハ之ヲ赦免ス
 第三條 數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者最重ノ罪赦免ヲ得タル場合ト雖モ他ノ罪ニ其効ヲ及ボサス
 第四條 赦免ヲ得ルト雖モ既ニ徵収シタル罰金科料及ヒ沒収シタル物件ハ還付セス
 第五條 陸軍大臣海軍大臣司法大臣ハ本令ノ施行ニ關シ必要ノ指揮ヲ爲ス可シ

明治二十二年七月三十日出版御届

宮城縣文書課



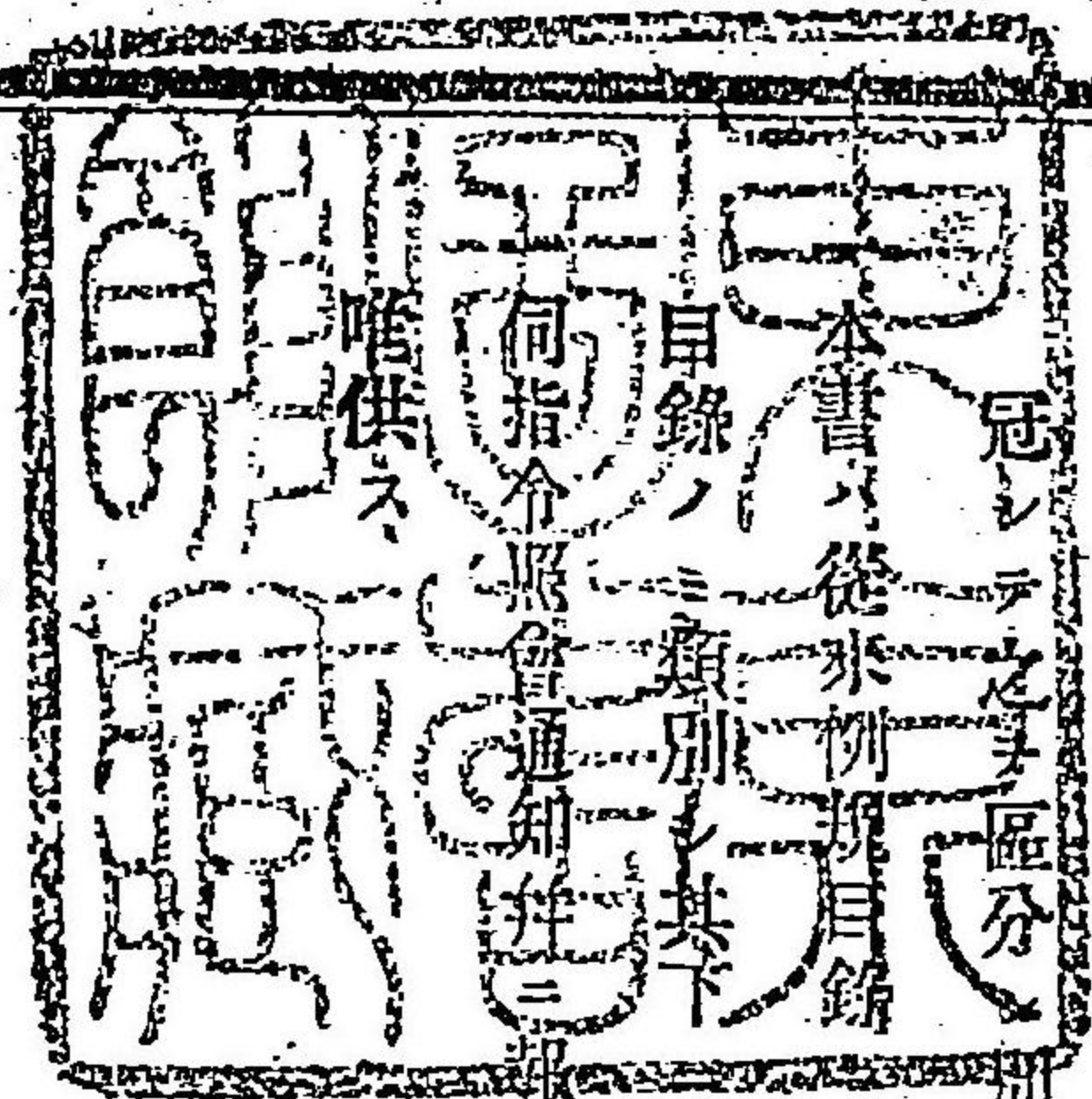
明治二十二年三月分

法令類纂

第三號

宮城縣庶務課

W21936



冠シテ之ヲ區分

本書ハ從來例規目錄

目錄ノニ類別シ其下

何指介照會通知并ニ

唯供ス

別ニ全文ヲ掲載セス

從テ類目錄纂セシト雖ヒ時日甚タ遷延ニ涉ルノ恐レアルヲ以テ唯タ其

丁數ヲ付シ本文参照ノ便ニ供ス

告類ト雖ヒ必要ト認ムルモノハ亦タ其部類中ニ併セ録シテ以テ參考ニ

一本書ハ每月初其前月中與羽日々新聞紙官報縣報欄内ニ掲載シタル諸法令ヲ編纂スルモノトス
但告示諸達中一時ニ止マリ後來ノ參照ヲ要セサルモノハ其要領ヲ目錄欄内ニ摘記シ圖點ヲ



○法令類纂目錄 明治二十二年 三月 分

皇室

參賀

門規門鑑

爵位勳等

勅令 第三十一日 勳章還納ノ件

八十八丁

閣令 全日 勳章還納手續

全

閣省官制官規

宮內省達 第二十八日 御料局中理事ヲ置ク

第廿一號令	一三	一月	東京圖書館官制	二十丁
第廿七號令	全	日	綿織網場官制廢止	廿一丁
第廿二號令	五三	日月	海軍高等武官進級條例改正	三十三丁
第廿四號	六三	日月	警視廳官制中改正	四十八丁
第廿六號	七三	日月	陸軍參謀職制中改正	五十二丁
第廿九號	全	日	海軍省官制改正	五十三丁
第卅四號	十三	四月	陸地測量官々々制	六十五丁
第卅五號	全	日	陸地測量官任用規則	全丁
第卅六號	全	日	陸地測量官々々俸給	六十六丁
第卅壹號令	廿三	一月	十九年司法省令丙第八號裁判所處務規程中改正	八十六丁
第卅號令	廿三	一月	高等商業學校主計專修科ノ卒業証書ヲ有スル者ハ普通試験ヲ要セス各官廳判任官見習ヲ命スルヲ得	八十九丁

府縣官制官規

郡市町村制

第卅九號令	廿三	二月	市役所及町村役場位置	丁一丁
第卅十號令	十三	八月	佐賀縣下佐賀ヲ市制施行地ニ指定	
第卅一號令	十三	二月	市制中京京都大坂三市ノ特例	八十九丁
農商務省訓令	三	五月	大林區署文具料支給法	
本縣訓令	三	月	地方稅支辨ノ文具給與規則	百八丁
勅令	三	六月	衆議院議員撰舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目	九十七丁
第卅六號令	廿三	六月	府縣會議員撰舉規則	甲一丁

官吏雜規

官吏賞罰

第全七號 廿六日 市制施行ニ付府縣會議員ノ撰舉及市公民ノ資格ニ關スル件 甲十一丁

宮城縣令 三十二日 縣會議員投票用紙式 八十四丁

第全二十號 廿二日 縣會議員撰舉人名原簿及人名簿調製期日並ニ手續 八十六丁

區町村會

法十一號律 廿一日 水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件 八十七丁

布令

請願建白

印章

圖書出版

大藏省告示 一三三 日月 租稅監査印章第一四九〇號一枚紛失ニ付發見ノ節ハ地方廳へ送致

內務省告示 一三三 日月 西野文太郎路傳外三種出版物發賣頒布禁止

第全七號 一三五 日月 繪入西野文太郎詳傳發賣頒布禁止
第全九號 一三六 日月 浮世一トセ節出版物發賣頒布禁止

集會

戶籍

賞與賑恤

財產

貸借

衛生

第 宮 城 縣 告 示 第 十 三 號	第 本 縣 訓 令 第 卅 三 號	第 全 五 號	第 全 四 號	第 內 務 省 令 第 卅 三 號	第 全 卅 二 號	第 本 縣 一 號	第 宮 城 縣 告 示 第 十 號	第 法 律 第 十 號	第 內 務 省 訓 令 第 六 號
卅三	卅三	全	全	廿三	全	卅三	卅三	卅三	八三
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
宮城病院藥價及手術料	娼妓煤毒院ノ位置及名稱	毒藥劇藥品目	藥品巡視規則	藥劑師試驗規則	娼妓煤毒院規則	娼妓煤毒檢查規則	本吉郡麻崎村字黃牛ニ於テ肝臟ダストマ病蔓延ノ勢アリニ付注意	藥品營業並藥品取扱規則	案用阿片受拂手續
百十九丁	百十八丁	百一丁	百一丁	九十九丁	九十三丁	九十三丁	八十七丁	六十九丁	五十七丁

第 全 十 六 號	第 全 十 五 號	第 全 十 四 號	第 勅 令 第 十 三 號	兵 制	忌 服	葬 儀	教 會 講 社	社 事
全	全	全	廿二					
日	日	日	日					
海軍主計學校官制中改正	海軍大學校官制中改正	陸軍一年志願兵條例	徵兵事務條例改正					
十五丁	十四丁	十丁	一丁					

陸軍省令	第三十七號	十三日	九月	陸軍輕重兵輸卒現役期限及入營期限	八十九丁
陸軍省令	第五號	十三日	九月	陸軍諸條例規則中參謀本部長トアルヲ參謀總長ニ陸軍參謀本部ヲ參謀本部ニ及陸軍乘馬飼養條例中ノ參謀本部長ヲ參謀次長ニ改ム	
陸軍省令	第六號	廿三日	二月	長野縣東筑摩郡外六郡在籍ノ豫備兵及現役兵々籍編入方	八一丁
陸軍省令	第四十號	廿三日	三月	水路部條例中改正	九十一丁
陸軍省令	第七號	廿三日	五月	陸軍警備隊兵卒入營前取扱方改正	八一丁
閣下令	第十一號	全日		試補及判任官見習ニシテ一年志願兵トナル者ハ在職ノ儘服役スルヲ得	九十四丁
勅令	第四十二號	廿三日	七月	要塞砲兵幹部練習所條例	百五丁
勅令	第四十三號	廿三日	八月	憲兵條例改正	百九丁
戒嚴					
徵發					

文部省告示	第一號	廿二日	八月	尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許規則ニ依リ檢定ヲ志願スル者願書差出期日	
縣令	第十四號	十三日	九月	市町村立小學校設置變更廢止規則	七十四丁
全令	第十五號	全日		市町村立小學校資產管理規則	八十一丁
全令	第十六號	全日		市町村立小學校經費収支規則	八十二丁
全令	第十七號	全日		公立小學校職制中更正追加	八十二丁
全令	第十八號	全日		市町村立小學校職員俸給額及給與規程	八十三丁
全令	廿五號	全日		教員演習會規則得業規則小學校職員俸給額小學校授業生職務心得並ニ俸給額小學校職員俸給支給方廢止	八十四丁
文部省令	第二號	廿二日		高等中學校醫學部學科程度追加	八一丁
勅令	卅二號	十三日	二月	朽木縣寒川郡ヲ廢シ下都賀郡ニ編入	五十七丁
內務省告示	第五號	十三日	二月	廿年告示第三號國道路線表四十八號中佐賀稷津間ニ若津ヲ加フ	

第廿七號令	本縣	驛	遞	廿一年縣令第六十五號山野火入取締規則第一條更正	百十四丁
第廿七號令	本縣	驛	遞	宮縣縣登米郡石越村と岩手縣西磐井郡蝦島村トニ係ル飛地所並組替	百十四丁
第廿七號令	本縣	驛	遞	全上	百八丁
第廿七號令	本縣	驛	遞	土地臺帳ハ從前ノ地券臺帳ヲ整理修補シテ充用	九十四丁
第廿七號令	本縣	驛	遞	土地臺帳規則	九十丁
第廿七號令	本縣	驛	遞	地券廢止	九十丁
第廿七號令	本縣	驛	遞	東京ヨリ香川縣ニ達スル國道路線指定	

第廿七號令	宮城縣	驛	遞	山試堀借區通洞及採取ニ關スル願書ノ副本ヲ一通ニ限ル	十四丁
第廿七號令	宮城縣	驛	遞	新潟遞信管理局外三局管轄區併管	
第廿九號令	本縣	驛	遞	若狹國三方郡佐柿郵便局ノ郵便爲換事務ヲ閉鎖シ全郡三方郵便局ニ於テ該事務取扱	
第卅號令	本縣	驛	遞	伊豫國新居郡西條郵便局ヲ西條郵便電信局トス	
第卅六號令	本縣	驛	遞	十八年五月乙第卅六號地方約東郵便規則廢止	百十六丁
第卅六號令	本縣	驛	遞	地方約東郵便規則	全丁
第卅九號令	本縣	驛	遞	電信電話線私設條規	六十七丁
第卅九號令	本縣	驛	遞	燈臺	
第卅九號令	本縣	驛	遞	私設航路標識取締條規	六十六丁
第卅九號令	本縣	驛	遞	北海道廳府縣及區町村立航路標識看守條規	六十七丁

鐵道

度量衡

本縣訓令
第一號

度量衡賣捌及仕入高調ニ關スル訓令第十二號中ニ字句
挿入

三十六丁

農商工

本縣訓令
第七號

養蠶學理傳習生徒募集

二十九丁

農務省令
第十三號

茶業組合規則中第十七條削除

六十六丁

宮城縣告示
第十四號

市町村制實施ニ付町村名變更ノ爲メ警察取締ニ屬スル
諸營業者ノ鑑札面ニ異動ヲ生シタル者訂正請求ノ件

百廿一丁

雜業

會社

大藏省告示
第二十一號

九十五國立銀行支店閉鎖

博覽會

牧畜

漁魚

鳥銃獵

國稅

法律
第九號

國稅徵收法

勅令
第三號

市町村長ヲシテ國稅ノ徵收ヲ爲サシム

六十二丁

大藏省訓令
第八號

國稅徵收法公布後既ニ徵收令書ヲ發シタルモノハ從前
ノ逕取扱方

已六丁

全
第九號

國稅諸規則ニ關スル營業其他ノ鑑札ニ異動ヲ生シタル
モノ、訂正方

已六丁

第廿六號	本縣訓令	三十五日	國稅徵收法公布以前ニ徵稅令書ヲ發シタルモノハ從前ノ通取扱方	八十五丁
第卅二號	全	三十日	町村制實施ノ爲メ國稅諸規則ニ關スル營業其他鑑札ニ異動ヲ生シタルモノ朱書訂正	百八丁
第廿七號	本縣訓令	廿七日	地方稅收入規則收入科目中雜收入中ハ貸座敷娼妓賦金ノ目追加	九十七丁
第廿三號	本縣訓令	廿九日	仙臺區名取宮城兩郡境界變更ニ付地方稅戶數割該區町村賦課額増減	百四丁
第廿四號	全	日	廿二年度地方稅收支豫算中更正	百五丁
第卅七號	全	卅三日	市町村制施行後ノ地方稅收入ハ當分從來ノ通り取扱	百十八丁
第卅八號	全	卅三日	廿二年度地方稅支出科目中消耗品ノ次ニ文具料ノ科目追加	百十八丁
第卅二號	內務省令	三十一日	市町村歲入出豫算表式	乙一丁
第卅一號	農商務省訓令	三十一日	廿二年度以降森林費取費中文具料ノ目ヲ設ケ筆墨料ノ節刪除	廿丁
第卅三號	勅令	四日	森林費俸給及諸給判任俸給ノ目中技手ノ一節ヲ設置	四十八丁
第卅四號	大藏省訓令	五日	廿二年度歲入歲出豫算	丙一丁
第卅五號	內務省訓令	九日	內國稅徵收費科目廿二年度ヨリ更正	戊一丁
第卅六號	大藏省訓令	九日	廿二年度經常歲出神社會中豫算	六十七丁
第卅七號	農商務省訓令	十一日	諸公債元金償還ノ爲メ抽籤執行	
第卅八號	大藏省訓令	十三日	延納貸金整理順序施行以前ノ延納貸金現在高報告方心得	六十九丁
第卅九號	大藏省訓令	十三日	金繰公債元金償還ノ爲メ抽籤執行	
第卅十號	全	十四日	整理公債証書交付手續	
第卅一號	全	十五日	廿二年度內國稅徵收費取扱順序	己四丁
第卅二號	全	十五日	廿二年度內國稅徵收費計算帳簿調理方	己六丁
第卅三號	全	日	雜部金收入支出帳簿規程	六十三丁
第卅四號	大藏省訓令	十六日	無記名起業公債証書中印形誤謬ノ証書引換	

出納公債

雜稅

地方稅

全 第 三 十 號	三 月 一 日	海軍公債第四回募集額及應募手續	已六丁
全 第 十 二 號	三 月 七 日	納稅告知書及ビ納付書ニハ其種類ニ依リ經常歲入臨時歲入ノ押印ヲナス	九十八丁
全 第 十 二 號	全 日	歲入歲出豫算概定順序	
全 第 十 二 號	全 日	歲入科目改正ニ付歲入報告書式中第一部第二部トアルヲ經常若シハ臨時ニ改ム	
全 第 廿 九 號	三 月 七 日	納額告知書及納付書ニハ其種目ニ依リ經常歲入臨時歲入ノ押印ヲナス	
全 第 三 十 號	三 月 九 日	廿二年度國庫金歲入科目改正	百七丁
閣 第 八 號	三 月 一 日	俸給旅費	
閣 第 八 號	三 月 一 日	非職官吏ノ俸給ハ廿二年度以降其所屬廳ニ於テ下渡	八十八丁
大 藏 省 告 示 第 廿 二 號	三 月 一 日	外國貨幣日本銀貨比較表	
大 藏 省 告 示 第 廿 四 號	三 月 五 日	紙幣燒棄	
大 藏 省 告 示 第 廿 七 號	三 月 十 四 日	兌換銀行券中改造一四券見本縱覽	
大 藏 省 告 示 第 卅 一 號	三 月 十九 日	地金ヲ輸入シ貨幣拂渡シテ望ム者運賃保險料改正	九十四丁

本 第 十 四 號	三 月 三 日	警 察	兌換銀行券一四見本各郡衙ニ於テ三月間縱覽	八十七丁
本 第 廿 八 號	三 月 七 日	訴 訟	娼妓賦金取扱方心得廢止	九十四丁
		治 罪 法		
		刑 法		
		銃 砲		
		囚 獄		

本縣訓令三十四日 統計報告樣式中削除

五十五丁

○勅令 朕徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 明治二十二年二月二十五日

勅令第十三號 徵兵事務條例

第一章 徵兵區

- 第一條 徵兵區ハ師管旅管及大隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ
 - 第二條 大隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ
 - 第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市ヲ以テ一區ト爲ス
一市ニシテ二大隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス
數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其島廳ヲ置クモノ亦同シ
 - 第四條 常備歩兵各聯隊ノ兵員ハ其旅管內最寄ニ大隊區ヨリ徵集スルヲ例トシ不足スルトキハ同管內他ノ大隊區ヨリ補充ス其他ノ兵員ハ其師管ヨリ徵集ス
近衛歩兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス
警備隊ノ兵員ハ其警備隊區ヨリ徵集ス
海軍兵員ハ各師管內沿海及島嶼ヲ包括スル大隊區ヨリ徵集ス
- 第二章 兵官
- 第五條 徵兵官ハ總督徵兵官師管徵兵官旅管徵兵官大隊區徵兵官及警備隊區徵兵官トス
 - 第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス
 - 第七條 師管徵兵官ハ師管內府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座トシ其管內府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 旅管徵兵官ハ旅管内府縣毎ニ旅團長及府縣書記官ヲ以テ之ニ充テ旅團長ヲ首座トシ其管内府縣徵募事務ヲ執行ス

第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區内徵募區毎ニ大隊區司令官及嶋司若シハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司若シハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其區内徵募準備事務ヲ執行ス

第十條 毎年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ陸軍二等軍醫一名並府縣徵兵參事區四名ヲ以テ旅管徵兵委員ヲ組織シ又陸軍一三三等軍醫一名並郡市徵兵參事員又ハ嶋嶼徵兵參事員各四名ヲ以テ大隊區徵兵委員又ハ警備隊區徵兵委員ヲ組織シ第十四條第十五條ノ事務ヲ掌ラシム

第十一條 府縣徵兵參事員ハ府縣常置委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 郡市嶋嶼徵兵參事員ハ其郡市島嶼内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 郡市島嶼徵兵參事員ノ撰舉人資格撰舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル但被撰人ハ其郡市島嶼内ニ居住ノ者ニ限ル

第十四條 府縣徵兵參事員及郡市島嶼徵兵參事員ハ互ニ兼スルヲ得ス

第十五條 陸軍二等軍醫正ハ旅管内徵兵身體檢査ノ事務ヲ掌リ陸軍一三三等軍醫ハ專ラ身體ノ檢査ニ從事ス

第十六條 府縣郡市及島嶼徵兵參事員ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル事件並徵兵令第二十八條ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任セ但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモトス

第十七條 第十條ニ掲グル徵兵委員ノ外旅團副官一名府縣屬若干名地方徵兵醫員一名ヲ以テ旅管徵兵署事務員トシ大隊區書記又ハ警備隊書記各一名島嶼附府縣屬又ハ郡市書記各一名地方徵兵醫員若干名ヲ以テ大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員トス

第十八條 旅團副官府縣屬大隊區書記警備隊書記島嶼附府縣屬及郡市書記ハ徵兵署ノ庶務ニ從事ス

第十九條 地方徵兵醫員ハ府縣知事ノ撰ヲ以テ之ヲ命ス陸軍醫官ノ指揮ヲ受テ身體檢査ノ事ヲ補助ス

第二十章 配賦

第十九條 毎年徵集ス可キ新兵ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 陸軍大臣ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵及海軍新兵ノ要員ヲ各師管ニ配賦ス

第二十一條 師團長ハ新兵ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十二條 新兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三章 徵募準備

第二十三條 町村長ハ毎年徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ戶籍簿ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り三月一日迄ニ島司又ハ郡市長ニ差出シ島司郡市長ハ点檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取繼テ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出ス可シ

第二十四條 市長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出ス可シ

第二十五條 土地廣潤壯丁多數ノ徵募區ニ在テハ徵箇ノ徵兵檢査所ヲ設ケルコトヲ得

第二十六條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署及檢査所巡回日割ヲ定メ之ヲ旅管徵兵官ニ申報ス可シ

島司郡市長、検査ノ日時徴兵署及検査所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示ス可シ

第二十六條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署及検査所ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其検査ハ徴兵委員ノ面前ニ被テスルモノトス

第二十七條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ撰定ニ任ス

第二十八條 島司郡市長ハ徴集延期及徴集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス

第二十九條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ハ徴兵検査名簿徴集延期名簿及徴集猶豫名簿ヲ作ル可シ

第三十條 大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署ニ於テ徴集ヲ延期シ又ハ徴集ヲ猶豫ス可キモノト裁決シタルトキハ各其證書ヲ附與ス

第三十一條 徴募準備事務終ルノ後大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ハ検査名簿其他終決ヲ受テ可キ書類ヲ取纏メ旅管徴兵官ニ差出ス可シ但徴集延期及徴集猶豫ニ屬シタル者ハ其人員ヲ旅管徴兵官ニ報告シ其名簿ハ島司郡市長之ヲ保管ス可シ

第五章 徴募

第三十二條 毎年徴募事務執行ノトキハ旅管内府縣毎ニ旅管徴兵署ヲ設ク

第三十三條 旅團長ハ府縣書記官ニ協議シ徴兵署巡回日割ヲ定メ之ヲ師管徴兵官ニ申報シ又之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達ス可シ

第三十四條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徴集順序ヲ定ムル爲メ徴募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分テ旅管徴兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ

抽籤ハ旅管徴兵委員及大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ノ面前ニ於テ抽籤總代人ノ之ヲ爲スモ

抽籤總代人ハ籤丁ノ撰ヲ以テ徴募區毎ニ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第三十五條 島司郡市長ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿二本ヲ作り其一本ハ之ヲ旅管徴兵官ニ差出シ他ノ一本ハ之ヲ保管ス可シ

第三十六條 抽籤終ルトキハ旅管徴兵官ハ籤番號ノ順序ニ從ヒ新兵徴募ノ處分ヲ爲シ其他ハ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ヨリ差出シタル書類ニ就テ終決ノ處分ヲ爲シ新兵名簿豫備

徴員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ヲ作ル可シ

第三十七條 旅管徴兵署ニ於テ終決ノ處分ヲ爲シタル者ニハ各其證書ヲ附與ス

第三十八條 徴募事務終ルトキハ旅團長ハ旅管徴兵事務報告書及徴兵表ヲ作り師團長ニ差出シ又新兵名簿ヲ各隊ニ交付シ抽籤名簿及豫備徴員名簿ヲ大隊區司令官ニ交付ス可シ

近衛新兵名簿ハ近衛都督ニ海軍新兵名簿ハ鎮守府司令長官ニ送致ス可シ

第三十九條 師團長ハ師管徴兵事務報告書及徴兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徴兵表ヲ作り奏上ス可シ

第六章 裁決

第四十條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第四十一條 假決ハ徴集延期及徴集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ新兵徴募豫備徴員及國民兵編入並死役ノ事ヲ裁決ス

第四十二條 假決ハ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官之ヲ爲シ終決ハ旅管徴兵官之ヲ爲ス

第四十三條 壯丁若クハ其家族ニ於テ徴兵令第二十條第二十一條第二十八條ニ關スル大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ノ裁決ニ不服アル

トキハ師管徵兵官ニ師管 兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理 兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲メニ裁決ノ執行ヲ停止セス
本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモノハ受理セス

第四十四條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願スル者ハ其裁決ヲ爲シタル徵兵官ニ其由ヲ届出可シ

第四十五條 第四十三條ノ訴願ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ同徵募區内其年徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添フ可シ

第四十六條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第七章 新兵

第四十七條 新兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月卅一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵及輜重輸卒ノ入營期日ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第四十八條 新兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ其人員ノ多少ニ應シ大隊區副官若クハ書記ヲシテ入營地ニ引率セシム但新兵五人未滿ナルトキハ引率セシムルヲ要セス

近衛新兵及海軍新兵ハ人員ノ多少ニ拘ハラズ大隊區書記ヲシテ其集合地ニ引率セシメ新兵受領委員ニ交付スルモノトス但大隊區書記出發後到着シタル者ハ隨ニ入營地ニ單行セシム

第四十九條 新兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第五十條 新兵入營前ハ轉籍ノ爲メニ所屬ノ隊籍ヲ變更セス但師團ノ諸兵ニシテ師管ヲ異スルトキハ此限ニ在ラズ

第五十一條 新兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難キ者ト認タル者アルトキハ其徵募區ヨリ同兵種ノ豫備徵員ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集シ同月同日迄ニ入營セシム若シ其徵募區ヨリ徵集スルコト能ハサルトキハ大隊區内他ノ徵募區ヨリ補フ其配賦ハ各徵募區豫備員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 新兵入營前廢疾又ハ不具ノ爲リ永久兵役ニ堪ハ難キ者アルトキハ旅團長ニ於テ兵役ヲ免ス

第五十三條 新兵入營前徵兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス

其願書ニハ市町村長ノ與書證明ヲ受ケ之ニ同徵募區内新兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ旅團長ニ差出ス可シ

第五十四條 新兵入營前轉籍セントスル者ハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ本條ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十五條 新兵入營前寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ本條ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十六條 豫備徵員ヲ徵集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從テ其配賦ノ法ハ豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十七條 豫備徵員他ノ徵募區ニ轉籍スルトキハ新舊住地徵募區最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシム

第五十八條 豫備徵員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉

籍後十四日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第五十九條 豫備徵員ハ徵募年ノ十二月卅一日迄ハ監視區長ノ認可ヲ受ケスレテ寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコトヲ得ス其期限後ニ於テハ往先ヲ詳ニシ監視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ
本條ニ違背セタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九章 雜則

第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ服セシメテ志願スル者ハ其願書ニ戶主若クハ家族ノ承認書ヲ添ヘ十二月一日前自己ノ服役セシムル軍隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受ク可シ
第六十一條 前條服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出可シ
第六十二條 徵兵令第二十條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戶主二名ノ保證書第二十一條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出可シ
其願書ニハ町村長ノ與書證明ヲ受ク可キモノトス
第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ能ハズ徵募區ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ハ一月卅一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡市長ニ願出可シ
島司又ハ郡市長ニ差出テ願書ニハ本籍地町村長ノ與書證明ヲ受ク可キモノトス
第六十四條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査日迄ニ島司又ハ郡市長ニ届出可シ其疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ
島司又ハ郡市長ニ差出テ願書ニハ町村長ノ與書證明ヲ受ク可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第六十五條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出可シ其疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ
其願書ニハ市町村長ノ與書證明ヲ受ク可キモノトス
第六十六條 徵兵署及徵兵検査所ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、新兵入營ノ旅費、府縣郡市島嶼徵兵參事員ノ手當金旅費、地方徵兵醫員ノ給料旅費ハ官給ス

第六十七條 現役中疾病或ハ傷痕ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ兵役ヲ免ス其一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ豫備役ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム
第六十八條 現役中兵令第二十條ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家族ノ願ニ由リ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ現役ヲ免シ豫備役ニ編入ス但現役年期ヲ通シテ七箇年開服役セシム
其願書ニハ市町村長ノ與書證明ヲ受ケ之ニ同徵募區内現役兵ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官及旅團長ヲ經テ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ差出ス可シ

第十章 附則

第六十九條 北海道廳管下函館江差福山其他島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長地方官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設ケルコトヲ得
第七十條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ同令第二十六條後段ノ例ニ準シ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第七十一條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其年及ハ翌年ノ徵集ニ應セ

シム但年齡十六歳ヲ過ル者ハ此限ニ在ラス

第七十二條 本條例中市長ノ職務ハ市制ヲ實施スル迄ハ區長ニ於テ町村長ノ職務ハ町村制ヲ實

施スル迄ハ市長ニ於テ行フ可シ

第七十三條 第三條ノ徵募區ハ市制ヲ實施スル迄ハ區ノ境域ニ依ル

第七十四條 明治二十二年ニ限リ第三條ノ壯丁名簿差出期限及第六十二條ノ願出期限ハ四

月十五日迄トシ第六十三條ノ願出期限ハ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

○勅令
陸軍一年志願兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十二年二月二十五日

勅令第十四號
御 璽

陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令第十一條ニ據リ一箇年間陸軍現役ヲ志願スル者ハ兵種及備成地ヲ撰ヒ服役スル

コトヲ得但服役中ノ費用官給ヲ受ケル者ハ此限ニ在ラス

第二條 一年志願兵ノ被服裝具彈藥武器及屬具ハ其所屬部隊ヨリ現品ヲ給シ其被服裝具費彈

藥費武器及屬具修理費トシテ金六十圓ヲ納メシム但服役滿期ノ際精算ヲ爲シ殘金アルトキハ

之ヲ還付ス
武器及屬具ハ服役滿期ノトキ之ヲ返納セシム

第三條 騎兵トシテ服役スル者ハ馬匹及馬具ヲ貸與シ其馬匹ニ係ル一切ノ費用及馬具修理費トシ

第四條 一年志願兵ノ外金八十圓ヲ納メシム但服役滿期ノ際精算シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス
第四條 一年志願兵ハ日給ヲ給セサルモノトス兵署檢査所往復旅費及入營退營旅費ハ一切自

辨トス

第五條 一年志願兵ハ營外ニ居住シ營内ニ居住セシメ其居宅及食餌ノ費用ハ本人ノ自辨トス

第六條 身元貧困コシテ費用ノ全部ヲ自辨スルコト能ハザル者ニハ左ノ區別ニ從ヒ官費ヲ以テ

一 居宅及食餌ノ費用ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同僚部隊ヨリ被服裝具彈藥武器

及屬具ヲ給與ス

二 武器及屬具ノ修理費ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同僚部隊ヨリ食餌被服裝具彈

藥ヲ給與シ營内ニ居住セシム

第七條 官費ヲ以テ服役ヲ許ス可キ一年志願兵ノ人員ハ毎年陸軍大臣ノ決定ム

第八條 官費ヲ以テ服役セシム可キ壯丁前條ノ定員ニ超過シタルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年

ニ回シ入隊セシムルコト可シ

第九條 一年志願兵ヲラント欲スル者ハ其願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ一月三十一日迄ニ島司又ハ郡

市長ニ差出シ島司郡市長ハ本人身元資産ノ有無及犯罪ノ有無ヲ取調ヘ證明書ヲ作り之ヲ願書

ニ添ヘ本人居住地所管ノ旅團長ニ差出ス可シ

一 戶主(本人戸主ナレハ其家族)ノ承認書此承認書ハ第二條第三條第五條第一項又ハ第六條

第一項若シハ第二項ノ費用ヲ自辨スルコトヲ記スルモノトス

二 官立學校(帝國大學理科及小學校ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若ハ文部大臣ニ於テ中學

校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若ハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學

政治學理財學ヲ教授スル私立學校卒業ノ者ハ第三項ニ掲グル承認書ノ外該學校ノ卒業證書

第十條 一年志願兵ヲラント欲スル者ニシテ一月三十一日迄ニ第九條第二項ノ學校ヲ卒業セサ

ルモ其年ノ九月三十日迄ニ卒業ノ可キ者ハ卒業證書ニ換フルニ學校長ノ證明書ヲ以テ願出ルコトヲ得但卒業シタルトキハ直ニ卒業證書ヲ添ヘ旅團長ニ届出可シ

第十一條 第九條ノ志願者中學術ノ試験ヲ受クヘキ者ハ其人各書ヲ旅團長ヨリ師團長ヲ經テ監軍ニ呈シ監軍ハ之ヲ將校學校監ニ下シ將校學校監ハ之ヲ陸軍將校生徒試験委員ニ下付ス師團長ハ自體檢査ノ時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ志願者ヲ召集シ其地所在ノ軍醫ヲシテ身體檢査ヲ爲サシメ合格者ノ人名書ヲ陸軍將校生徒試験委員到着ノトキ交付ス

第十二條 陸軍將校生徒試験委員ハ志願者ノ身體檢査ニ合格シタル者ノ學術ヲ試験シ試験書ヲ旅團長ニ送付ス

第十三條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ノ試験及合格格例ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十四條 旅團長ハ試験ノ成績ニ依リ及第落第ヲ定メ之ヲ本人ニ通知シ其及第者ニハ併セテ認定證書ヲ附與ス

第十五條 第九條第二項ノ卒業證書及第十條ノ證明書ヲ所持スル者ハ一般ノ徵兵ト同時ニ身體ノ檢査ヲ爲シ其合格者ニハ認定證書ヲ附與ス但第十條ノ證明書ヲ所持スル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ附與スヘシ

第十六條 一年志願兵認定證書ヲ附與シタル人名書ハ旅團長ヨリ大隊區 兵官ニ送付ス可シ

第十七條 志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ十一月三十日限り第二條第三條第六條第二項ノ費用ヲ部隊ニ納ム可シ

第十八條 一年志願兵入隊シタルトキ若シハ次年回リト爲リタルトキハ本籍所管大隊區徵兵官ニ届出可シ

第十九條 一年志願兵入隊スル時ハ旅團長(獨立大隊ニ在テハ大隊長以下同シ)之ヲ部下某中隊ニ編入シ該中隊長ヲシテ教育ニ任セシム

第二十條 一年志願兵軍事學ノ教授ハ旅團長以下大尉若シハ中尉ノ内一名ヲシテ掌ラシム

第二十一條 一年志願兵ノ教育及軍事學ノ教授ニ就テハ旅團長其責ニ任スルモノトス

第二十二條 一年志願兵ノ勤務及服裝ハ一般ノ兵卒ト異ナルコトナレ但營中雜役ヲ免シ又被服ニ特別ノ教章ヲ附ス

第二十三條 室内其他諸物品ノ掃除及馬匹馬具等掃拭ノ爲メ兵卒ヲ使役スルコトヲ得但馬匹馬具等ノ掃拭ヲ習得スル爲メハ自ラ之ヲ爲スヲ要ス

第二十四條 上等兵ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際旅團長ハ一年志願兵終末試験委員ヲシテ學科及實地上ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長(步兵ハ旅團長ヲ經テ)ニ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス終末試験ニ落第シタル者ハ二等軍曹ニ任シ若シハ下士適任證書ヲ附與シ豫備役ニ編入ス

第二十五條 醫學藥學又ハ理財學若シハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊ニ獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ志願軍吏志願軍醫志願藥劑生又ハ志願獸醫生ト爲リ各專門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得

志願ノ者ハ入隊ノ際學校ノ卒業證書ヲ以テ其由ヲ申立可シ

獸醫學卒業證書ヲ所持シ志願獸醫生トシテ志願スル者ハ第三條ノ納金ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 志願軍吏志願軍醫志願藥劑生及志願獸醫生ヲ命スルニハ近衛又ハ師團監督部

長若シハ軍醫長獸醫長ヨリ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ請フ可シ
第二十七條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受ケルモノトス

第二十八條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ト爲シタル者ハ服役備期ノ際近衛又ハ師團監督部長若シハ軍醫長若シハ獸醫長一年志願兵終末試験委員チレテ實地ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長ニ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ豫備役ニ編入ス

終末試験ニ落第シタル者ハ曹長若シハ軍曹相當官ニ任シ豫備役ニ編入ス
第二十九條 近衛都督又ハ師團長ハ一年志願兵終末試験委員ヲ組織シ及其試験ノ方法ヲ定ム
第三十條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年ノ十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵ノ資格ヲ失フモノトス
第三十一條 戰時若シハ事變ニ際スルキハ一年志願兵ト雖モ一般ノ兵卒ト同シク服役セシム

附則

第三十二條 明治二十二年ニ環リ第九條ノ額出期限ハ三月十五日迄ト
第三十三條 第二條第三條ノ納金額ニ變更ヲ要スルトキハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム
○宮城縣訓令第十九號 明治二十二年三月一日 郡 區
鑛山試堀借區通過洞及採取ニ關スル終願書是迄正副三通差出來候處自今副本ハ一通差出スヘシ

○勅令 朕海軍大學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

勅令第十五號

明治二十一年(七月)勅令第五十五號海軍大學校官制第二條左ノ通改正ス
第二條 海軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 一人 中將若シハ少將
- 次長 一人 大佐
- 副官 二人 大尉
- 教頭 一人 大佐(次長ヲ以テ兼補ス)
- 教官 十五人 少佐大尉四人(内陸軍工兵少佐若シハ大尉二人)機技部上長官大機關士大技士四人教授七人
- 軍醫長 一人 大軍醫
- 軍醫 一人 大軍醫若シハ少軍醫
- 主計長 一人 大主計
- 主計 二人 大主計若シハ少主計

○勅令 朕海軍主計學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽
明治二十二年二月廿五日
○勅令 海軍主計學校官制

勅令第十六號
第一條 海軍主計學校ハ海軍大學校ニ屬シ少主計候補生ヲ學生トナシ主計官ニ必要ナル學術ヲ授ケル所トス

第二條 海軍主計學校ノ事務ハ總シ海軍大學校ニ於テ管ス

第三條 海軍主計學校ニ在ノ職員ヲ置ク

- 校長 一人 主計監
 - 教官 四人 教授
 - 監事 三人 主計監大主計
- 教官ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得
- 第四條 校長ハ大學校長ノ命ヲ承ケ學生ノ軍紀風紀ヲ維持シ且校務ヲ整理ス
- 第五條 教官ハ各科ノ教授ヲ擔任ス
- 第六條 監事ハ校長ノ命ヲ承ケ學生ヲ監督シ其事務ヲ掌ル
- 第七條 第三條ニ掲グル職員ノ外判任官及卒若于人ヲ置ク

○勅令 明治二十二年二月廿五日

朕海軍軍樂練習所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十七號

海軍軍樂練習所官制

- 第一條 海軍軍樂練習所ハ海軍大學校ニ屬シ軍樂員ヲ養成シ軍樂ヲ講究スル所トス
- 第二條 海軍軍樂練習所ノ事務ハ總テ海軍大學校ニ於テ管理ス
- 第三條 海軍軍樂練習所ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 所長 一人 大尉
 - 教官 無定員 軍樂師若クハ軍樂手
- 第四條 所長ハ海軍大學校長ノ命ヲ承ケ部下ヲ統率シ所内ノ事務ヲ整理ス
- 第五條 教官ハ軍樂手軍樂生及軍樂生志願ノ者ヨリ軍樂ヲ教授ス

第六條 教官タル軍樂師ハ練習中ノ軍樂手以下ヲ分轄ス

○勅令 明治二十二年二月二十五日

朕海軍少主計候補生採用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十八號

海軍少主計候補生採用規則

- 第一條 海軍少主計候補生ヲランコトヲ欲スル者ハ海軍大臣ノ告示ニ遵ヒ出願ス可シ
- 第二條 海軍大臣ハ委員ヲ設ケ身体検査學術試驗ヲ行ヒ合格ノ者ヲ採用ス
- 第三條 左ニ掲グル事項ニ當ル者ハ候補生ヲ出願スルコトヲ得ス
 - 一 年齢二十年未滿及二十八年以上ノ者
 - 二 有妻ノ者
 - 三 禁錮以上ノ刑ヲ受ケタル者
 - 四 賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
 - 五 身代限ノ處分ヲ受ケ其辨償ヲ終ヘサル者
- 第四條 候補生ニ採用シタル者ハ一箇年間海軍主計學校ニ於テ修學セシメ卒業ノ後ハ實地ニ試用シ本官ニ缺員アルトキ順次本官ニ採用ス
- 第五條 候補生海軍主計學校ニ於テ卒業試驗ニ落第スルトキハ候補生ヲ免ス但成業ノ目的アル者ハ六箇月以内修學セシメ再試験ヲ行フコトアル可シ
- 第六條 候補生海軍主計學校ニ於テ修學中傷病疾病等ニ因リ課程ヲ踐ミ難クシテ定期中學科ヲ修得シ能ハサル者ハ尙ホ六箇月以内修學セシメ卒業試驗ヲ行フコトアル可シ但此試驗ニ落第スルトキハ候補生ヲ免ス

第六條 候補生ハ情願ヲ以テ辭退スルコトヲ許サス
第七條 候補生中左ニ掲ケル事項ニ當ル者ハ候補生ヲ免ス
一 品行不正ニシテ改悛ノ目的ナキ者
二 傷痍疾病等ニ罹リ卒業ノ目的ナキ者

○閣令第六號 明治二十二年二月二十七日 各官廳
明治二十二年法律第一號徵兵令第二十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏
ハ豫メ其官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請フ可シ

○勅令 明治二十二年二月二十五日
朕海軍准士官服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十九號 海軍准士官服役條例
第一條 准士官ノ服役ヲ分ツコト左ノ如ク

第一條 現役
第二條 豫備
第三條 後備
第二條 現役トハ現ニ軍務ヲ奉スル者及修學ヲ命セラレタル者ヲ云フ
休職者ハ現役ニ準ス
休職トハ左ニ掲ケル事項ノ一ニ因リ職務ナキ者ヲ云フ
一 廢職
二 定員改正

三 停務トナリタル者歸朝シ他員已ニ代リテ其職口在ルトキ
四 特別ノ職務ヲ終ヘ又ハ修學滿期ニシテ就職ノ命ナキトキ
五 傷痍若シハ疾病六箇月ニ至リ尙快復ノ候ナキトキ但本人ノ情願或ハ職務ニ因リ代員ヲ必
要トスルトキハ六箇月ヲ待ツノ限ニ在ラス
六 禁錮ノ刑ニ處セラレ刑官ヲ附加セラレサルトキ

第三條 豫備トハ年齡滿期ニ至ラスシテ左ニ掲ケル事項ノ一ニ因リ現役ヲ退キタル者ヲ云フ
第一 休職ニ入り三年ニ至リ就職セサルトキ
第二 行爲懲戒ス可キコトアリ其情狀稍輕ク免官ニ至ラサル者
第四條 豫備トハ年齡滿期ニ至リ現役ヲ退キタル者及豫備滿期ニ至リタル者ヲ云フ
豫備服役ニ期ハ三箇年トシ後備服役ニ期ハ五箇年トス
第五條 豫備後備者ハ召集ニ應ス可キモノトス
第六條 准士官後備滿期ニ至リタルトキ又ハ傷痍疾病ノ爲メ永久服役ニ堪ハスシテ現役又ハ豫
備又ハ後備ヲ退キタルトキハ其官ヲ免ス

○勅令 明治二十二年二月二十六日
朕陸軍戸山學徒條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十號 陸軍戸山學校條例第三條中左ノ項改正ス
教官歩兵少佐二人ヲ三人トシ歩兵大尉九人ヲ十二人トス

○農商務省訓令第十一號 明治二十二年三月一日 府縣 大林區署設置アル府
縣及沖繩縣ヲ除ク

大林区署

明治二十二年度以降當省主管森林費廳費(項)中筆紙墨文具(目)ノ次位ニ文具料ノ一目ヲ設置シ筆紙墨文具ノ目中筆墨料ノ節ヲ削減ス

明治二十二年二月廿八日

○陸軍省告示第二號 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵募ニ應セント欲スル者ハ本年勅令第十三號改正徵兵事務條例第七十四條ニ依リ三月一日ヨリ四月十五日迄ニ願出可キノ處該條例施行期限內右期日ヲ過ルル地方ハ施行期限後十日以内ニ願出ルコトヲ得

○陸軍省告示第三號 明治二十二年二月廿八日 徵兵令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服セシコトヲ志願スル者ハ本年勅令第十四號陸軍一志願兵條例第三十二條ニ依リ三月十五日迄ニ願出可キノ處該條例施行期限內右期日ヲ過ルル地方ハ施行期限後十日以内ニ願出ルコトヲ得

○勅令 朕東京圖書館官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十一號

東京圖書館官制

第一條 東京圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ各種ノ書圖ヲ蒐集保存シ及閱覽參考ノ用ニ供スル所トス

第二條 東京圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長

書記

第三條 館長ハ一人奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ圖書ノ蒐集保有分類整頓及目錄編纂其他一切ノ館務ヲ掌理シ所属職員ヲ統督ス

第四條 館次長ハ一人奏任トシ現任館長ノ次等以下トス館長ノ職務ヲ佐ケ館長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○閣令第七號

明治二十二年三月一日

明治十九年(四月)閣令第七號中錦織綱場官制ヲ廢ス

○陸軍省令第一號 明治二十二年二月廿八日

徵兵事務條例施行細則左ノ通定ム

徵兵事務條例施行細則

第一條 條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作り一市一町村チ一冊ト爲シ冊尾ニ人員ノ總計ヲ記シ市町村長之ニ署名押印ス可シ

第二條 徵兵令第七條及第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名書ヲ作り壯丁名簿ニ添附ス可シ

第三條 條例第二十五條ノ徵兵署及徵兵検査所巡廻區割ヲ定ムル爲メ島司郡市長ハ壯丁名簿及前年復決ノ謄名簿ヲ調査シ其人員ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ報告ス可シ

第四條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ撰定シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官到着ノ上之ヲ開設ス可シ

徵兵検査所ハ大隊局徵兵官又ハ警備隊區徵兵官豫メ旅管徵兵官ヲ經テ師管徵兵官ノ認可ヲ受ケ一箇所概テ壯丁百人以上一日間ニ往復ヲ爲シ得ル里程内ノ地ニ設ク可シ

二十

第五條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵檢查所巡回日割既ニ定マルトキハ島司郡市長ハ某
徵募區内ニ於テ毎日検査ヲ受ク可キ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至レハ市町村吏
員チシテ壯丁ヲ引リテ徵兵署又ハ徵兵検査所ニ出頭セシム可シ

第六條 壯丁ノ身體検査ヲ行フトキハ島縣府縣屬郡市書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵検査規
則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其他諸要ノ件ヲ壯丁名簿並前年假決ノ諸名簿ニ記入シ大隊
區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出ス可シ

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁チシテ裸體ナラシムルトキハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於
テス可シ

第八條 身體検査ノ際現役ニ服セシコトヲ志願スル者アルトキハ大隊區徵兵官ハ本人ノ身元ヲ
調査シ其意況書ヲ添ヘ旅管徵兵官ニ具申ス可シ
其志願者ハ體格甲種ニシテ身元確實ト認ムル者ハ旅管徵兵官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得
第九條 身體検査終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ合格者チシテ抽籤總代人ヲ撰ハ
シメ其人姓名旅管徵兵官ニ報告ス可シ

第十條 徵兵令第十八條第十九條及第二十條ニ依リ徵集延期ニ屬シ第二十一條ニ依リ徵集猶豫
ニ屬スル者ハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附録第二樣式ニ依リ徵集延期證書徵集
猶豫證書ヲ作り市町村市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長チシテ本人ニ附與セシ
ム可シ
徵兵令第二十條第二十一條ノ願ヲ許可セサル者ハ願書ニ裁決ノ旨懸テ記載シ前項ノ例ニ依
リ本人ニ附與ス可シ

第十一條 陸軍諸兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ撰フ可シ

- 一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者
 - 二 騎兵ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者
 - 三 砲兵ハ體格強大ニシテ視力清明ナル者
 - 四 工兵ハ諸職工ヲ殊ニ工兵ノ作業ニ適當シ膂力アル者
 - 五 輜重兵及輸重輜卒ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ且膂力アル者
 - 六 職工ハ現ニ其職ニ從事シ又ハ嘗テ其職ニ從事セシ者
- 近衛諸兵ハ甲種合格ニシテ品行方正ノ者ヲ撰フ可シ
- 第十二條 海軍兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ撰フ可シ
- 一 海員免狀ヲ受有シ海員ノ業ニ從事スル者
 - 二 漁車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ從事スル者
 - 三 現ニ前項ノ職業ニ從事セスト雖モ一箇年以上嘗テ之ニ從事セシ者
 - 四 舟夫
 - 五 漁夫

職工及雜卒ハ各其勤務ニ適當ノ者ヲ撰フ可シ
第十三條 條例第二十九條ノ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ハ壯丁名簿及前年假決
ノ諸名簿ヲ以テ編綴ス可シ但徵兵検査名簿ハ種類ヲ分チ之ヲ編綴シ冊尾ニ大隊區徵兵官又ハ
警備隊區徵兵官署名押印シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ
公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其年徵集スルコトヲ止ムハ壯丁ハ徵集延期名簿ニ一年志
願兵出願中及認可ヲ受ケタル者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其事由ヲ記スルモノ
トス

第十四條 大隊區ニ於テ師團步兵聯隊ノ配賦人員ヲ充スコト能ハサルトキハ大隊區司令官ヨリ之ヲ旅團長ニ具狀シ旅團長ハ他ノ大隊區尙兵種ノ人員ヲ調査シ殘餘アルトキハ先ツ之ヲ以テ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキ他ノ最寄ニ個ノ大隊區ニ配賦ス可シ其配賦ノ法ハ條例第二十二條ノ例ニ依ル

第十五條 徵兵令第二十條ニ當リ其事故第三年ニ至ルモ仍ホ止マサル者及同令第二十八條ニ當ル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ郡市政兵參事員又ハ島嶼徵兵參事員ヲシテ其當否ヲ審議セシメ之ニ意見書ヲ付シ旅管徵兵官ニ呈出ス可シ

第十六條 徵兵令第二十一條ニ當ル者ハ徵集猶豫ノ期限間身體ノ檢査ヲ行ハス

第十七條 疾病傷痕又ハ犯罪等ノ爲メ身體檢査ニ出頭セサル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ其狀況ニ由リ他ノ徵募區ノ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ徵兵檢査所若クハ旅管徵兵署ニ出頭セシメ若クハ翌年ノ檢査ニ回ス可シ但疾病傷痕ノ者ハ特宜ニ由リ其家ニ就キ檢査ス可シ

第十八條 旅管徵兵署ハ府縣書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ撰定シ旅團長到着ノ上之ヲ開設ス可シ

第十九條 抽籤施行ニ先ツテ旅管徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ徵募區毎ニ兵種及甲乙兩種ニ分テ籤札ヲ作ル可シ

籤ノ番號ハ合格者ノ數ニ應ジ第一番ヨリ起スナ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ハサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番号ヲ附着シ其次番號ヨリ籤番號ヲ起ス可シ

第二十條 籤札ハ附録第三様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ旅管徵兵委員大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官列席ノ前ニ置キ其封ヲ披キ島嶼附府縣屬郡市政書記籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ビ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第二十一條 條例第三十五條ノ抽籤名簿ハ一貫ノ番號ヲ配シ籤總代人ノ抽ク毎ニ其住所氏名ヲ相當番號ノ下ニ記入ス可シ

第二十二條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ビ其籤札ヲ島嶼附府縣屬又ハ郡市政書記ニ渡シ島嶼附府縣屬郡市政書記ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼付シ割印ヲ押シ一人毎ニ之ヲ截テ切り總代人ニ交付ス可シ

第二十三條 檢査合格者ハ左ニ掲グル順序ニ從ヒ現役兵ニ編入シ其要員ニ超過スル者ハ豫備徵兵ニ編入ス

- 一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者(二人以上ナルトキハ年齢ノ順序)同年齡ノ者ハ誕生月日ノ順序ニ從テ第二項第三項第五項第六項亦同シ)
 - 二 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラステ徵集スル者
 - 三 甲種合格者ニシテ現役志願ノ者
 - 四 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者(番號ノ順序ニ從テ第七項亦同シ)
 - 五 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者
 - 六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラステ徵集スル者
 - 七 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者
- 第二十四條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵署ニ於テ附録第四第五第六第七様式ニ依リ新兵證書豫備徵員證書國民兵證書及免役證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ニシテ本人ニ附與セシム可シ
- 徵兵令第二十條ニ依リ國民兵編入ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ又同令第二十八條ニ依リ徵集スル者ニハ別ニ其裁決書ヲ作り前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ
- 第二十五條 條例第二十六條ノ新兵名簿豫備徵員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ハ徵兵檢査名

簿ヲ以テ編綴シ種類ヲ分テ冊尾ニ旅管徵兵官署名押印ス可シ

第二十六條 旅管徵兵署ニ於テ抽籤名簿ニ基キ兵監視名簿及豫備徵員監視名簿ヲ作り各監視區長ニ交付ス可シ

第二十七條 條例第三十八條ノ徵兵表ハ附錄第八様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第二十八條 壯丁名簿進達後検査前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ徵募區ヨリ入籍シタル者アルキハ町村長之ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ但検査後抽籤前ニ係ルモノハ嶋司又ハ長郡ヲ經テ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

市ニ在テ検査名簿進達後抽籤前々項ニ當ル者ハ市長之ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ
新兵入營前及豫備徵員ノ名簿ニ關スル異動(轉入籍ヲ除ク)ハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知ス可シ

第二十九條 検査後抽籤前徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ検査名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

其異動轉籍地ノ抽籤後ニ係ルトキハ次年ニ於テ徵集ス

第三十條 徵兵令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長ニ於テ其名簿ニ訂正ヲ加フ可シ但郡又ハ島嶼ニ在テハ町長其異動ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ

他ノ徵募區ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

第三十一條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ同令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫トナリ延期若クハ猶豫中本籍ニ復歸シ又ハ他ノ徵募區ニ寄留替ヲ爲シ更ニ其地ニ於テ徵集ニ應ル度キ旨一月三十一日迄ニ

願出ルトキハ島司郡市長之ヲ許可スルコトヲ得

島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ徵集延期名簿若クハ集積豫名簿ヲ添ヘ新住地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ但寄留替ノ者ハ本籍ノ島司郡市長ニモ通知ス可シ

第三十二條 徵兵令第二十五條ノ届出期限後條例第七十一條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡長ニ差出ス可シ

市ニ在テハ市長壯丁名簿ヲ作り大隊區徵兵署又ハ旅管徵兵署ニ提出ス可シ

第三十三條 新兵入營ノ期ニ先テ大隊區司令官ニ於テ入營地若クハ近衛海軍新兵集令地ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ嶋司又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達ス可シ

第三十四條 條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍新兵受領委員ハ左ノ如シ
下士若クハ上等兵(海軍ハ一等卒以下之ニ做フ)一名兵卒一名乃至三名

新兵五十一人以上百五十八迄
中少尉(海軍ニ在テハ大尉以下之ニ做フ)一名下士若クハ上等兵一名乃至二名兵卒四名乃至六名

新兵百五十一人以上三百八迄
中少尉一名下士若クハ上等兵二名乃至三名兵卒八名乃至十名

新兵三百一人以上
大尉一名中少尉一名下士若クハ上等兵三名乃至五名兵卒十名乃至十五名

第三十五條 條例第四十八條第二項ノ近衛海軍新兵集令地ハ左ノ如シ

第一師管ハ東京、横須賀

第二師管ハ仙臺、白河

第三師管ハ四日市、沼津

第四師管ハ神戸

第五師管ハ廣島、吳、九龍

第六師管ハ長崎、佐世保、大分

第三十六條 近衛、海軍新兵入營ノ期ニ先チ近衛及鎮守府ニ於テ新兵ノ集合地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割チ定メ豫メ之ヲ各師團司令部ニ通牒ス可シ

第三十七條 條例第四十九條ノ入營延期願濟ノ者其他事故不參ノ者アルトキハ新兵引率ノ大隊區副官若クハ書記ヨリ各隊長又ハ近衛、海軍新兵受領委員ニ茲由チ通知ス可シ

第三十八條 條例第五十一條ニ依リ豫備徵員ヲ以テ新兵ノ缺員ヲ補フニハ大隊區司令官ニ於テ其取扱ヲ爲ス可シ

第三十九條 徵兵令第二十七條ニ於リ翌年回ト爲リタルモノハ其年ノ新兵同降ニ入營セシム可シ但本條ノ人員ハ其年ノ新兵所要人員ニ加ヘザルモノトス

第四十條 新兵入營前癩疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其診斷書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ旅團長ニ具申ス可シ

第四十一條 條例第五十四條及本則第二十八條第三項ニ當ル新兵ノ異動ハ大隊區司令官ヨリ旅團長ニ報告ス可シ但新兵名簿送致後ニ在テハ旅團長ヨリ各隊長又ハ近衛都督若クハ鎮守府司令長官ニ通牒ス可シ

第四十二條 新兵入營前他ノ師管ニ轉籍シ隊籍ヲ變更スヘキ者アルトキハ本人名簿ヲ添ヘ旅團長ヨリ之ヲ轉籍地ノ旅團長ニ通牒ス可シ

第四十三條 新兵豫備徵員ニシテ轉籍シタル者ノ新兵證書豫備徵員證書ハ總テ轉籍地ノ大隊區司令官ニ於テ訂正ス可シ

第四十四條 新兵證書豫備徵員證書國民兵證書及免役證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ新ニ徵方チ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

第三樣式

(鐵札)

用紙厚紙

近衛(海軍)

甲(乙) 種 何 兵 第 何 番

鐵札用紙ハ嶋廳郡市役所ニ於テ調製スヘシ